223

Y994-J75

1200700463698

栄典関係法規集

総理府賞勲局

Y994-J75

Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Kodak Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
© Kodak, 2007 TM: Kodak

はしがき

この法規集は、栄典関係の法令、諸規程およびこれに関連して参考となる他の法令等を集録したものである。現行法令のほか、旧法令で参考となるもの若干を含む。

なお、昭和二十一年以来停止されていた生存者叙勲の開始および戦没者の叙位および叙勲に関する閣議決定その他で重要な基本方針と思われるものもあわせて集録した。

昭和三十九年七月

総理府賞勲局

Y994
J75

I種
W
1200700463698

p60

正誤表

伝達式例中一部改正　三九、一〇、一三

第三条中「勲章は、」の次に「宮中において」を加える。

第四条および第六条中「内閣総理大臣官房賞勲部長」を「総理府賞勲局長」に改める。

栄典関係法規集 目次

憲法

○日本国憲法(抄)……(昭和二一年一二月三日公布 昭和二二年五月三日施行)……一

勲章

○勲章従軍記章制定ノ件……(明治八年太政官布告第五四号)……二
○大勲位菊花大綬章大勲位菊花章図式及大勲章以下略綬ノ件……(明治一〇年太政官達第九七号)……七
○勲章増設ノ詔……(明治二一年一月四日詔)……九
○各種ノ勲章等級製式及ヒ大勲位菊花章頸飾ノ製式……(明治二一年勅令第一号)……九
○各種勲章及大勲位菊花章頸飾ノ図様……(明治二一年閣令第二一号)……一〇
○婦人ノ勲労アル者ニ瑞宝章ヲ賜フノ件……(大正八年勅令第二三二号)……一八
○文化勲章令……(昭和一二年勅令第九号)……一九

位階

○位階令……(大正一五年勅令第三二五号)……二〇

目次

○位階令施行細則……（大正一五年閣令第六号）……二二

褒章

○褒章条例……（明治一四年太政官布告第六三号）……二四
○褒章条例取扱手続……（明治二七年閣令第一号）……二六

記章

（従軍記章）

○明治七年従軍記章……（明治八年太政官布告第五四号）……二七
○明治二十七八年従軍記章条例……（明治二八年勅令第一四三号）……二七
○明治三十三年従軍記章条例……（明治三五年勅令第一四二号）……二九
○明治三十七八年従軍記章条例……（明治三九年勅令第五一号）……三〇
○大正三年乃至九年戦役従軍記章令……（大正四年勅令第二〇三号）……三二
○昭和六年乃至九年事変従軍記章令……（昭和九年勅令第二二五号）……三三

（記念章）

○帝国憲法発布記念章制定ノ件……（明治二二年勅令第一〇三号）……三五
○大婚二十五年祝典之章制定ノ件……（明治二七年勅令第二三号）……三六
○皇太子渡韓記念章制定ノ件……（明治四二年勅令第四二号）……三七

○韓国併合記念章制定ノ件……（明治四五年勅令第五六号）……三八
○大礼記念章制定ノ件……（大正四年勅令第一五四号）……三九
○大礼記念章制定ノ件……（昭和三年勅令第一八八号）……四〇
○戦捷記章令……（大正九年勅令第四〇六号）……四一
○第一回国勢調査記念章制定ノ件……（大正一〇年勅令第二七二号）……四二
○朝鮮昭和五年国勢調査記念章令……（昭和七年勅令第一四五号）……四三
○帝都復興記念章令……（昭和五年勅令第一四八号）……四四
○紀元二千六百年祝典記念章令……（昭和一五年勅令第四八八号）……四五

佩用

（勲章等）

○勲章佩用式……（明治二一年勅令第七六号）……四六
○勲章等着用規程……（昭和三九年総理府告示第一六号）……四六

（略章略綬）

○略章略綬佩用心得……（明治一二年賞勲局告示第二号）……四八
○大勲位菊花章頸飾略鎖略章佩用ノ件……（明治三五年内閣告示第二号）……五〇
○勲章記章又ハ褒章ヲ有スル者制服著用ノ節略綬佩用ニ関スル件……（大正七年内閣告示第四号）……五〇

諸規程

（還納）

○勲章還納ノ件……（明治二二年勅令第三八号）……五一
○勲章還納手続……（明治二二年閣令第九号）……五一

（褫奪）

○勲章褫奪令……（明治四一年勅令第二九一号）……五一
○勲章褫奪令施行細則……（明治四一年閣令第二号）……五三

（返上）

○位、勲章等ノ返上ノ請願ニ関スル件……（昭和二〇年勅令第六九九号）……五六
○位、勲章等ノ返上ノ請願ニ関スル件施行ノ件……（昭和二〇年閣令第六八号）……五六

（その他）

○叙勲者等族籍氏名変更届出方……（大正三年内閣告示第六号）……五七

閣議決定事項等

○官吏任用叙級令施行に伴ふ官吏に対する叙位及び叙勲並びに貴族院及び衆議院の議長、副議長、議員又は市町村長及び市町村助役に対する叙勲の取扱に関する件……（昭和二二年五月三日閣議決定　昭和二二年五月三日裁可）……五八

○生存者に対する叙勲の取扱に関する件……（昭和二八年九月一八日閣議決定　昭和二八年九月一八日裁可）……五九
○生存者に対する叙勲に関する件……（昭和二八年一〇月一六日決裁）……五九
○生存者叙勲の開始について……（昭和三八年七月一二日閣議決定　昭和三八年七月一二日裁可）……五九
○勲章、記章、褒章等の授与及び伝達式例……（昭和三八年七月一二日閣議決定　昭和三八年七月一二日裁可）……六〇
○戦没者の叙位及び叙勲について……（昭和三九年一月七日閣議決定　昭和三九年一月七日裁可）……六〇

参考規程等

○民事訴訟法（抄）……（明治二三年法律第二九号）……六二
○軽犯罪法（抄）……（昭和二三年法律第三九号）……六二
○商標法（抄）……（昭和三四年法律第一二七号）……六二
○文化功労者年金法……（昭和二六年法律第一二五号）……六三
○外国勲章佩用願規則……（明治一八年太政官布告第三五号）……六四
○金鵄勲章ノ等級製式佩用式……（明治二三年勅令第一一号　昭和二二年政令第四号廃止）……六四
○金鵄勲章叙賜条例……（明治二七年勅令第一九三号　昭和二二年政令第四号廃止）……六八
○支那事変従軍記章令……（昭和一四年勅令第四九六号　昭和二一年勅令第一七七号廃止）……六八
○金鵄勲章併佩ニ関スル件……（昭和一六年勅令第七二六号　昭和二二年政令第四号廃止）……七〇

憲　法

●日本国憲法（抄）（昭和二十一年十一月三日公布　昭和二十二年五月三日施行）

第三条　天皇の国事に関するすべての行為には、内閣の助言と承認を必要とし、内閣が、その責任を負ふ。

第四条　天皇は、この憲法の定める国事に関する行為のみを行ひ、国政に関する権能を有しない。

天皇は、法律の定めるところにより、その国事に関する行為を委任することができる。

第七条　天皇は、内閣の助言と承認により、国民のために、左の国事に関する行為を行ふ。

（中　略）

七　栄典を授与すること。

（以下略）

第十四条　すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。

華族その他の貴族の制度は、これを認めない。

栄誉、勲章その他の栄典の授与は、いかなる特権も伴はない。栄典の授与は、現にこれを有し、又は将来これを受ける者の一代に限り、その効力を有する。

勲章

●勲章従軍記章制定ノ件

（明治八年四月十日太政官布告第五十四号）

〔沿革〕明治九年一一月一五日太政官布告第一四一号改正

今般勲章別冊ノ通被定候条此旨布告候事

（別冊）（朕以下八十二字原書朱字）

朕惟フニ凡ソ国家ニ功ヲ立テ績ヲ顕ス者宜ク之ヲ褒賞シ以テ之ニ酬ユヘシ　仍テ勲等賞牌ノ典ヲ定メ人々ヲシテ寵異表彰スル所アルヲ知ラシメントス　汝有司其斯旨ヲ体セヨ

明治八年二月

勲等勲章

勲等ハ勲績及功労アル者ヲ賞スル為メニ設クル所ノ階級ニシテ位階ト異ナル故ニ各種ノ勲章ヲ佩用セシム

勲等ヲ分ツテ八級ト為ス

勲一等

右ニ叙スル者ハ一等勲章ヲ賜フ

勲二等

右ニ叙スル者ハ二等勲章ヲ賜フ

勲三等

右ニ叙スル者ハ三等勲章ヲ賜フ

勲四等

右ニ叙スル者ハ四等勲章ヲ賜フ

勲五等

右ニ叙スル者ハ五等勲章ヲ賜フ

勲六等

右ニ叙スル者ハ六等勲章ヲ賜フ

勲七等

右ニ叙スル者ハ七等勲章ヲ賜フ

勲八等

右ニ叙スル者ハ八等勲章ヲ賜フ

○

従軍記章

従軍記章ハ将卒ノ別ナク軍功ノ有無ヲ論セス凱旋ノ後従軍セシ徴ニ之ヲ賜フ

○

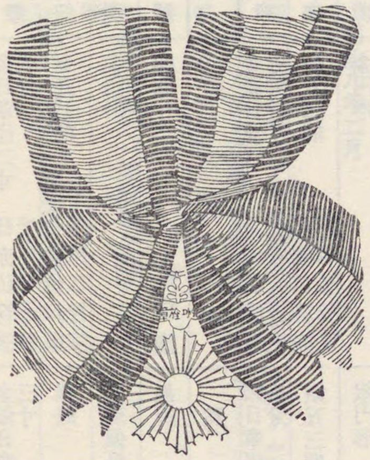
一勲章及従軍記章ハ佩用本人ニ止リ子孫之ヲ用ユルコトヲ得ス

勲一等	勲二等	勲三等	勲四等
章　金日章径二寸五分　日赤仏筇篏光線白仏筇篏	金銀日章径三寸　日赤仏筇篏光線二重白仏筇篏	金日章径一寸八分　日赤仏筇篏光線白仏筇篏	金日章径一寸五分　日赤仏筇篏光線白仏筇篏
鈕　金五七桐　花紫仏筇篏葉緑仏筇篏	無鈕	金五七桐　花紫仏筇篏葉緑仏筇篏	金五七桐　花紫仏筇篏葉緑仏筇篏
環　金円形	無環佩針銀	金楕円形	金円形
綬　幅四寸　紅白織	無綬	幅一寸　紅白織	幅一寸　紅白織

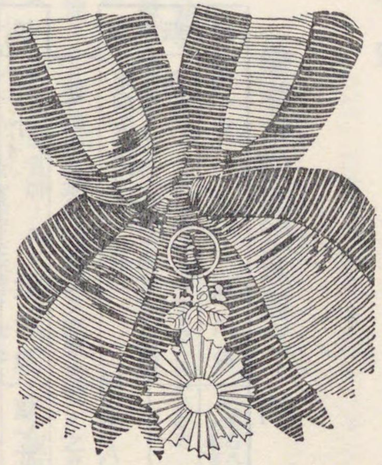
勲五等	勲六等	勲七等	勲八等
章　金銀日章径一寸五分　日赤仏筇篏光線白仏筇篏	銀日章径一寸五分　日赤仏筇篏光線白仏筇篏	銀五三桐章径一寸　花紫仏筇篏葉緑仏筇篏	銀五三桐章径一寸　花紫仏筇篏葉同
鈕　金五三桐　花紫仏筇篏葉緑仏筇篏	銀五三桐　花紫仏筇篏葉緑仏筇篏	無鈕	無鈕
環　金円形	銀円形	銀円形	銀円形
綬　幅一寸　紅白織	幅一寸　紅白織	幅一寸　紅白織	幅一寸　紅白織

従軍記章
章　銀桐条紋円章径一寸
鈕　銀
綬　幅一寸　緑白織

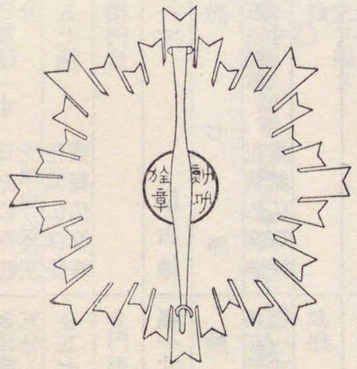
勲一等

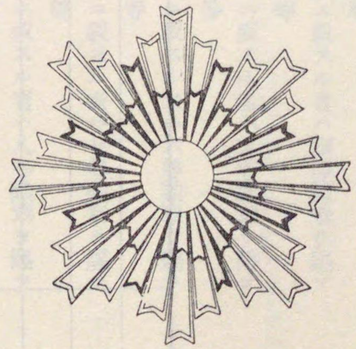


勲一等

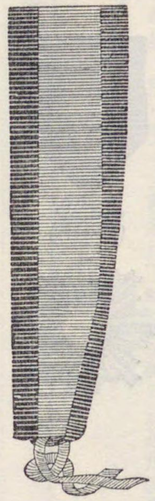


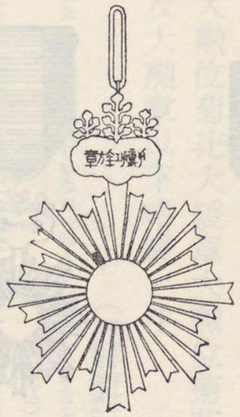
勲二等

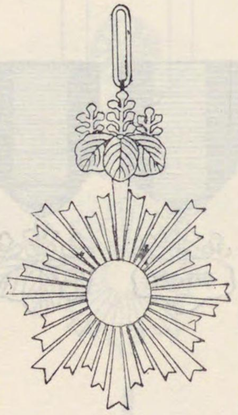




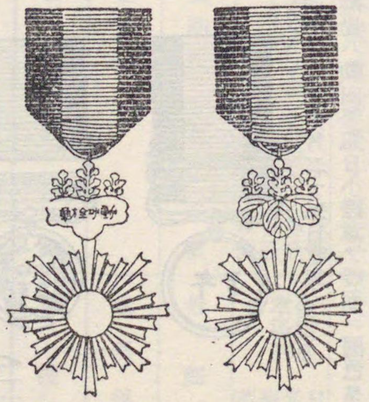
勲三等



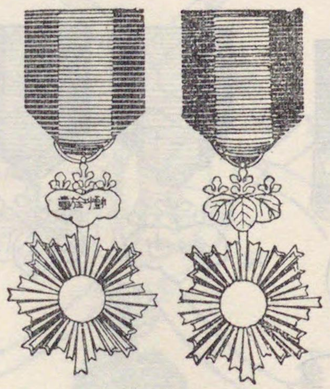




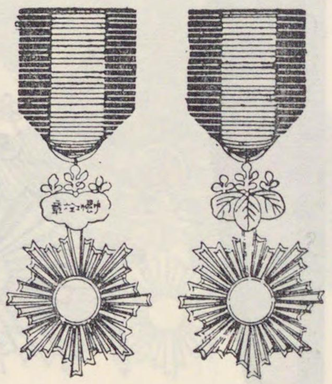
勲四等



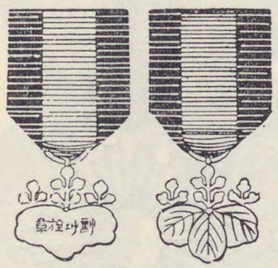
勲五等



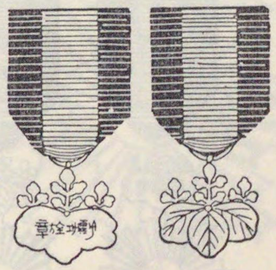
勲六等



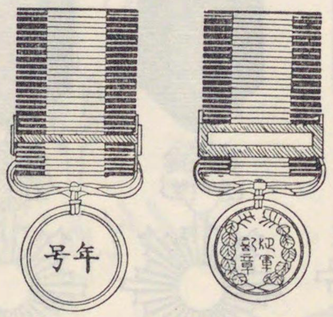
勲七等



勲八等



従軍記章



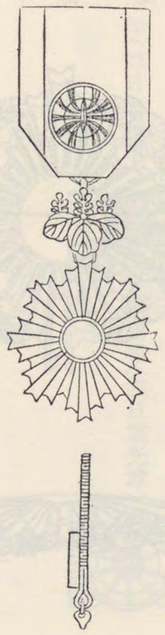
（二二二八白　八緑）

〔参照〕○明治十九年十月二十五日官報

賞勲局ハ勲四等旭日小綬章ノ綬面ニ同色ヲ以テ左図ノ如キ円形綵花（仏朗西語「ローゼット」Rosette）ヲ加附セラル事ヲ上申シ本月十六日裁可ヲ経テ治定セリ因リテ従来該

章ヲ受領シタル人々ヘハ追ヒテ新ニ此ノ彩花ノ附飾ヲ下附シ受領者ハ各自之ヲ其ノ綬面ニ取付ケ佩用スル事ト為セリ

勲四等旭日小綬章ニ彩花ヲ附着シタル図



同上側面

●大勲位菊花大綬章大勲位菊花章図式及大勲章以下略綬ノ件

（明治十年十二月二十五日太政官達第九十七号）

〔沿革〕大正一〇年四月二六日勅令第一四六号、昭和一一年五月一九日第六五号改正

（官）院省（使）府県

明治九年中欽定ノ大勲位菊花大綬章大勲位菊花章図式別冊ノ通ニ候事

従前各種ノ略綬ヲ廃シ更ニ大勲章以下略綬別紙ノ通被定候事

右相達候事

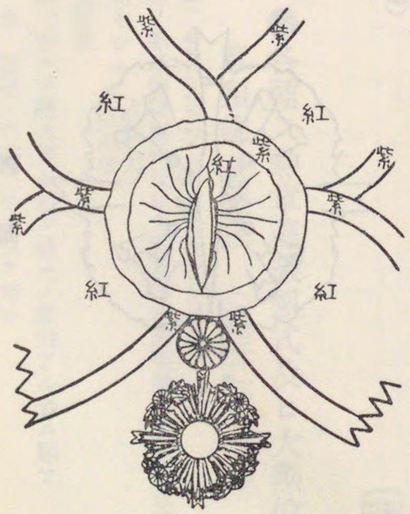
（別冊）

【大勲章佩用式】

【一菊花大綬章ハ旭日大綬章勲一等ヲ佩帯スルニ同シ菊花章ハ旭日重光章勲二等ヲ佩帯スルニ同シ】

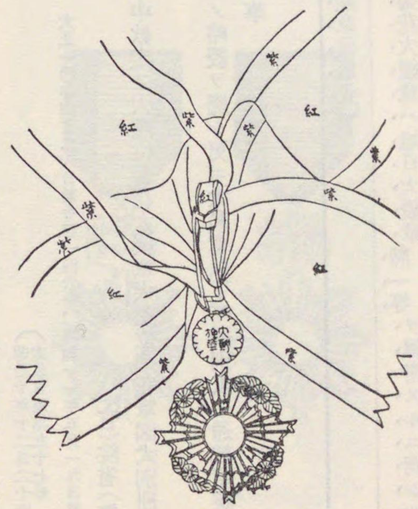
	大勲位菊花大綬章	大勲位菊花章
章	金日章径二寸五分　日光線赤仏蘇鍍　菊花黄仏蘇鍍　葉緑仏蘇鍍	金銀日章径三寸　日光線二重白仏蘇鍍　菊花黄仏蘇鍍　葉緑仏蘇鍍
鈕	金菊花　黄仏蘇鍍	無鈕
環	金円形	無環佩針銀
綬	幅三寸八分　紅紫織	無綬

大勲位菊花大綬章面表章綬大花菊位勲大

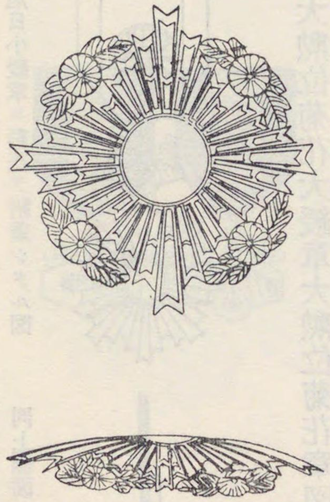


大勲位菊花大綬章大勲位菊花章図式及大勲章以下略綬ノ件

大勲位菊花大綬章裏面



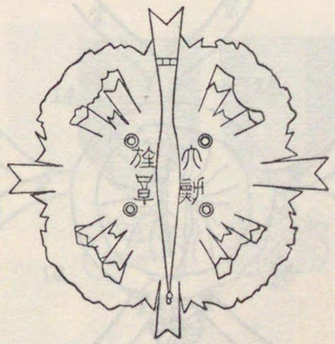
大勲位



表面

側面

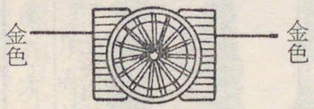
菊花章



裏面

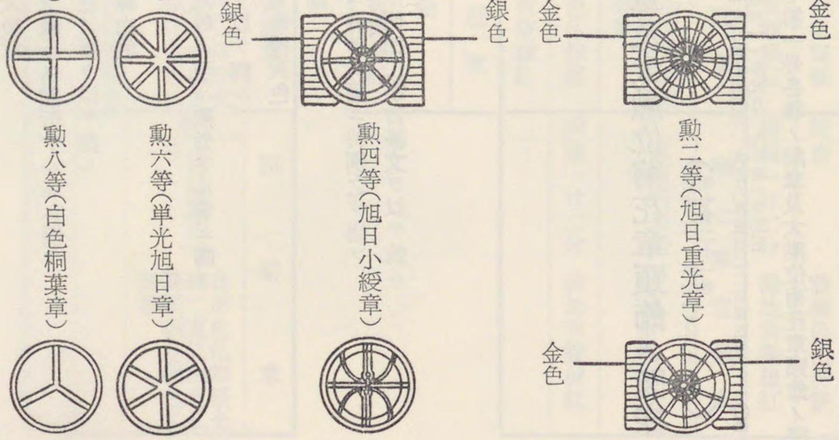
（別紙）

大勲位菊花章略綬（地紅色、縁及線紫色直径三分五厘図ノ如キ翼ヲ附ス）



旭日章略綬（地白色、縁及線紅色直径三分五厘勲三等以上ノモノニハ図ノ如キ翼ヲ附ス）

勲章増設ノ詔　各種ノ勲章等級製式及ヒ大勲位菊花章頸飾ノ製式



附　則（大正十年四月二十六日勅令第百四十六号）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　本令施行前授与セラレタル略授ハ本令ニ規定スルモノト異ルモ当分ノ内仍之ヲ佩用スルコトヲ得

附　則（昭和十一年五月十九日勅令第六十五号）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　従前ノ略綬ハ当分ノ内仍之ヲ佩用スルコトヲ得

●勲章増設ノ詔（明治二十一年一月四日）

朕曩ニ勲位ヲ定メ佩章ノ制ヲ設ク茲ニ復潤飾増設シ新旧与ニ併行シ勲功アル者ヲ賞旌シ以テ奬励ノ道ヲ拡ム汝衆庶此旨ヲ体セヨ

（総理大臣副署）

●各種ノ勲章等級製式及ヒ大勲位菊花章頸飾ノ製式（明治二十一年一月四日勅令第一号）

〔沿革〕明治二九年四月一三日勅令第一三六号改正

朕各種ノ勲章等級製式及ヒ大勲位菊花章頸飾ノ製式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

一　宝冠章

勲一等ヨリ勲八等ニ至ル婦人ノ勲労アル者ニ賜フ

章　宝冠ト竹桜ノ形ヲ以テ飾ル

綬　地黄色双線紅色

一　勲一等旭日桐花大綬章

旭日大綬章ノ上級トス勲労アル者ニ賜フ

章　旭日ト桐花ノ形ヲ以テ飾ル

綬　地紅色双線白色

一　瑞宝章

勲一等ヨリ勲八等ニ至ル勲労アル者ニ賜フ

章　鏡珠ノ形ヲ以テ飾ル

綬　地淡藍色双線橙黄色

一　大勲位菊花章頸飾

頸飾ハ大勲位ニ叙セシ者ニ特別之ヲ賜フ

菊花菊葉ノ形ト明治二字古篆文ヲ以テ飾ル

●各種勲章及大勲位菊花章頸飾ノ図様

（明治二十一年十一月二十六日閣令第二十一号）

〔沿革〕明治二九年四月一三日閣令第四号、大正八年五月二二日第四号、一〇年四月二六日第四号、昭和一一年五月一九日第一号改正

明治二十一年一月勅令第一号各種ノ勲章及大勲位菊花章頸飾ノ図様左ノ如シ

勲一等瑞宝章			勲二等瑞宝章（勲一等瑞宝副章同式）	
章	金径二寸二分	鏡銀地藍色仏篠	章	金径二寸五分	鏡銀連珠紅色仏篠
綬	幅三寸三分（婦人ニ賜フ瑞宝章ニ在リテハ幅二寸六分）	織地淡藍黄	綬	幅一寸二分	織地淡藍黄雙線橙

勲三等瑞宝章			勲四等瑞宝章	
章	金径一寸八分	鏡銀地藍色仏篠連珠紅色仏篠金四条光線白篠	章	金径一寸五分	鏡銀地藍色仏篠連珠紅色仏篠金四条光線白篠
綬	幅一寸二分	織地淡藍黄雙線橙	綬	幅一寸二分	彩花ヲ付着ス織地淡藍黄雙線橙

勲五等瑞宝章			勲六等瑞宝章	
章	金径一寸五分	鏡銀地藍色仏篠連珠紅色仏篠金四条光線白篠	章	金径一寸三分	鏡銀地藍色仏篠連珠紅色仏篠金四条光線白篠
綬	幅一寸二分	織地淡藍黄雙線橙	綬	幅一寸二分	織地淡藍黄雙線橙

勲七等瑞宝章			勲八等瑞宝章	
章	金径一寸二分	鏡銀連珠金	章	銀径一寸二分	鏡銀連珠銀
綬	幅一寸二分	織地淡藍雙線橙	綬	幅一寸二分	織地淡藍雙線橙

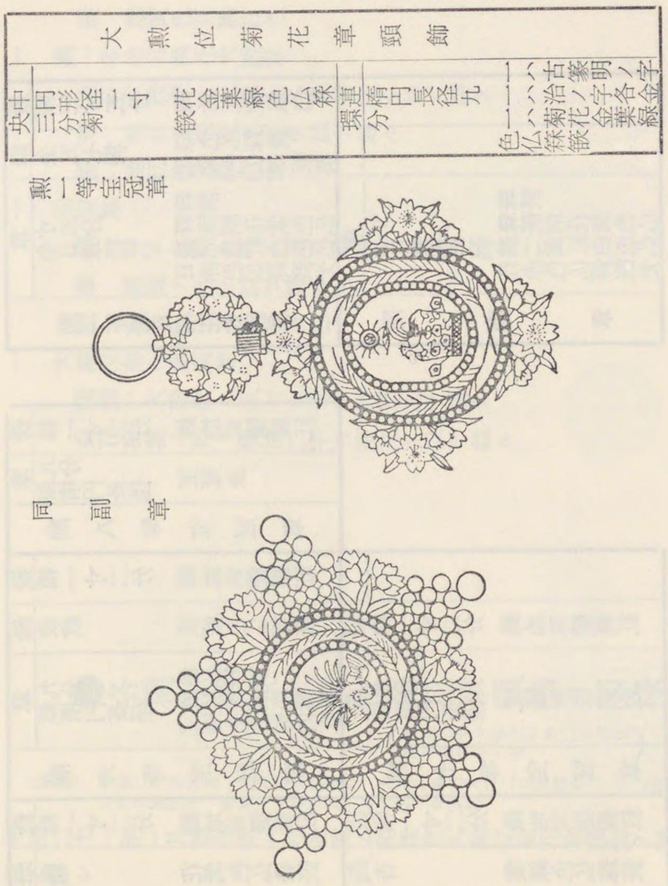
勲一等宝冠章			勲二等宝冠章	
章	金楕円長径一寸二分	宝冠金地藍色仏篠間篠濃紅重廓真珠其仏	章	金楕円長径一寸一分	宝冠金地藍色仏篠間篠濃紅重廓真珠其仏
鈕	桐	花紫色仏篠葉	鈕	牡丹	花白色仏篠葉
綬	幅二寸六分	織地黄雙線紅	綬	幅一寸二分	織地黄雙線紅

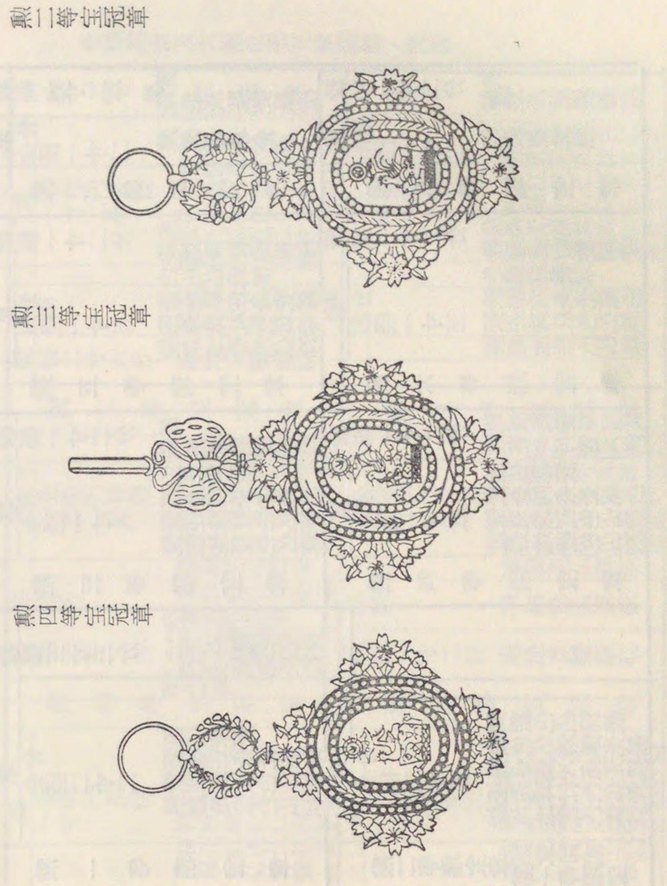
勲三等宝冠章			勲四等宝冠章	
章	金楕円長径一寸一分	宝冠金地藍色仏篠間篠濃紅重廓真珠其仏	章	金楕円長径一寸	宝冠金地藍色仏篠間篠濃紅重廓真珠其仏
鈕	蝶	羽白色仏篠	鈕	牡丹	花白色仏篠葉
綬	幅一寸二分	織地黄雙線紅	綬	幅一寸二分	織地黄雙線紅

勲五等宝冠章			勲六等宝冠章	
章	銀楕円長径一寸	宝冠金地藍色仏篠間篠濃紅重廓真珠其仏	章	銀楕円長径一寸九分	宝冠金桜葉金
鈕	杏	葉緑色仏篠	鈕	杏	葉緑色仏篠
綬	幅一寸二分	織地黄雙線紅	綬	幅一寸二分	織地黄雙線紅

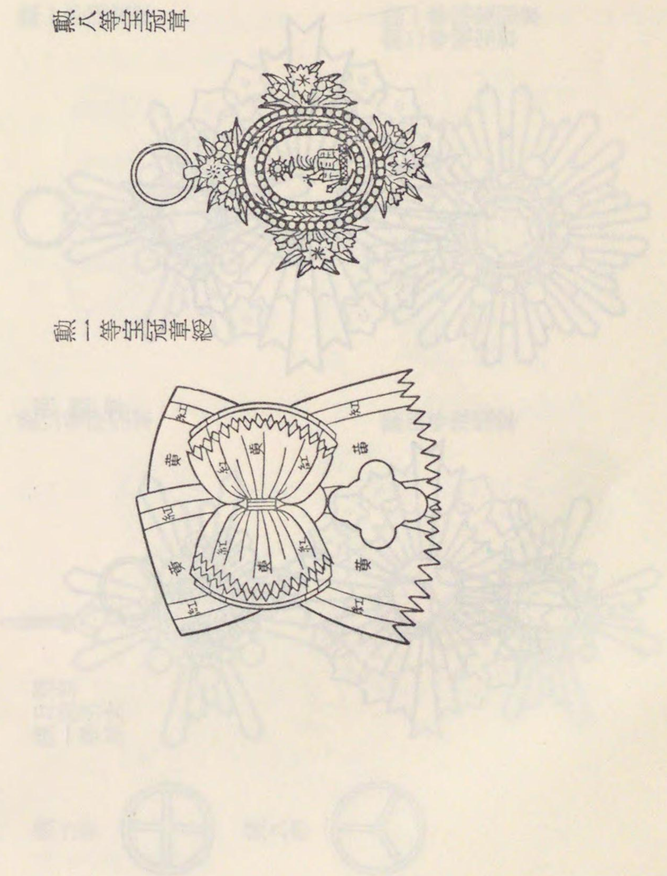
勲七等宝冠章			勲八等宝冠章	
章	銀楕円長径九分	宝冠金	章	銀楕円長径九分	宝冠金
綬	幅一寸二分	織地黄雙線紅	綬	幅一寸二分	織地黄雙線紅

勲一等旭日桐花大綬章			同副章	
章	金日章径二寸五分	日赤色仏篠光線二重紅白色仏篠桐花紫色仏篠	章	金日章径三寸	日赤色仏篠光線二重紅白色仏篠桐花紫色仏篠
鈕	金五七桐	花紫色仏篠葉緑色仏篠			
綬	幅三寸五分	織地紅雙線白			

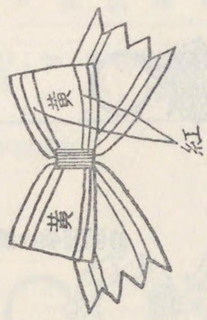

大勲位菊花章頸飾
央中
三円形
分菊
一寸
篏花金蒔繪色仏
琺瑯
環連
分楕円
長径九
一色
一仏
八琺瑯菊
八治花
古篏
明蒔
ノ金
字蒔
各ノ
金字
蒔繪
勲一等宝冠章
同副章


勲二等宝冠章
勲三等宝冠章
勲四等宝冠章

勲五等宝冠章
勲六等宝冠章
勲七等宝冠章

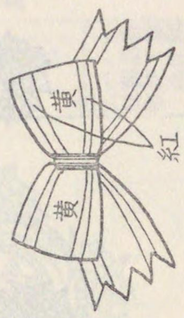

勲八等宝冠章
勲一等宝冠章綬
帝
室
紅
黄
菊

勲二等以下宝冠章綬



宝冠章略綬（地及縁黄色、ニハ図ノ如キ翼ヲ附ス）

勲六等以下宝冠章綬



線紅色直径三分五厘勲三等以上ノモノ

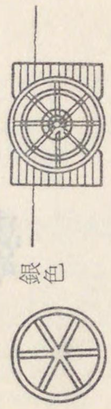
勲一等

勲四等

勲二等

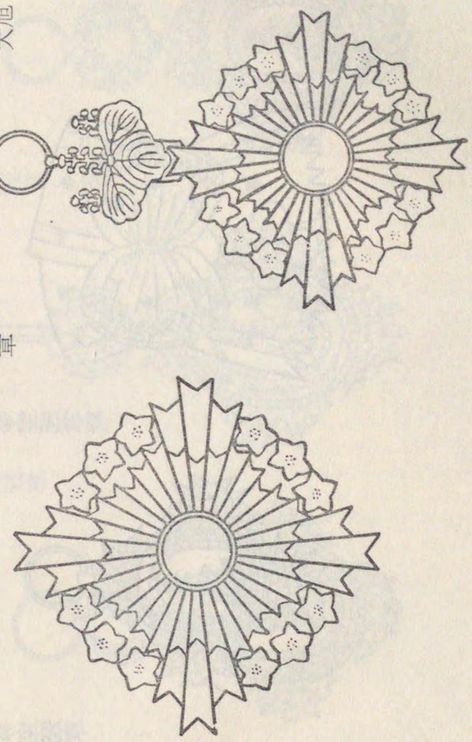
勲五等

勲三等



勲六等

同副章

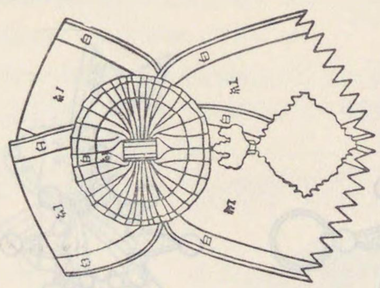


綬日章桐花勲一等大旭

勲七等

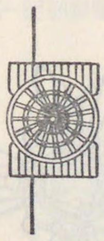
勲八等

勲一等旭日桐花章大綬



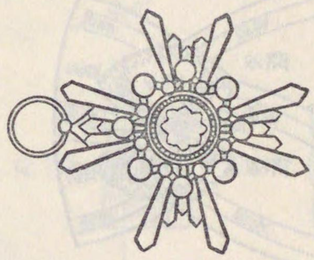
同略綬（地及縁紅色、線白色直径三分五厘図ノ如キ翼ヲ附ス）

金色

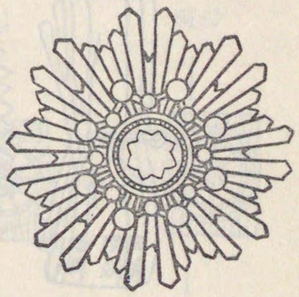


金色

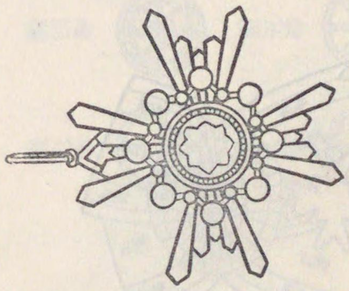
勲一等瑞宝章



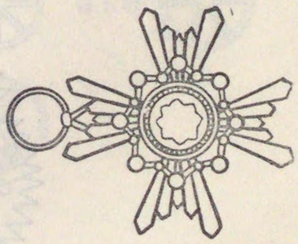
勲二等瑞宝章副章



勲三等瑞宝章

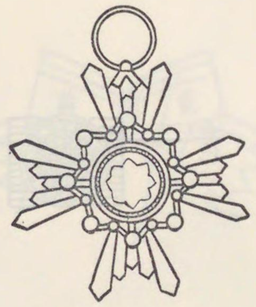


勲四等瑞宝章

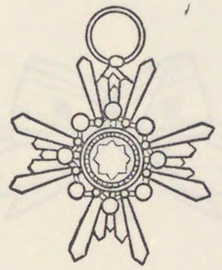


各種勲章及大勲位菊花章頸飾ノ図様

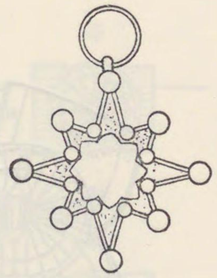
勲五等瑞宝章



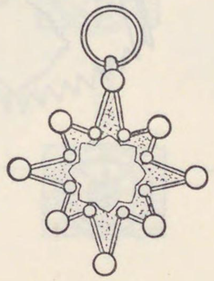
勲六等瑞宝章



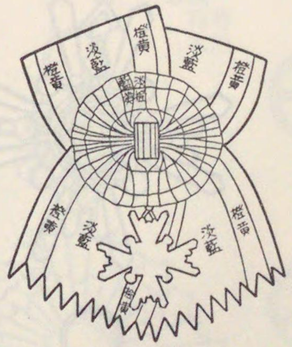
勲七等瑞宝章



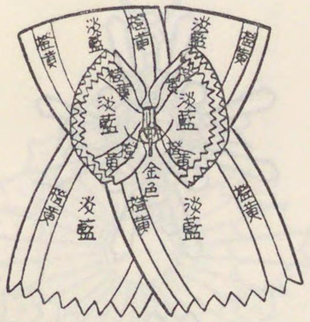
勲八等瑞宝章



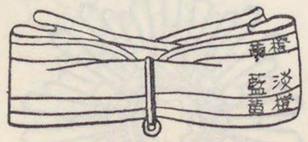
勲一等瑞宝章大綬



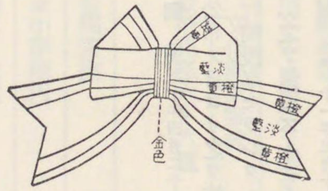
婦人ニ賜フ勲一等瑞宝章大綬



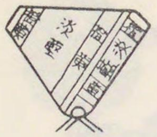
勲三等瑞宝章綬



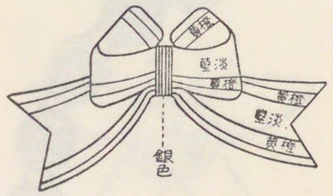
婦人ニ賜フ勲三等以下瑞宝章綬



勲四等以下瑞宝章綬



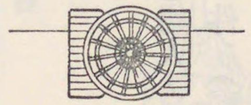
婦人ニ賜フ勲六等以下瑞宝章綬



各種勲章及大勲位菊花章頸飾ノ図様

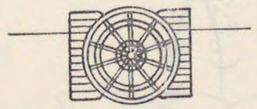
瑞宝章略綬（地及縁淡藍色、線橙黄色直径三分五厘勲三等以上ノモノニハ図ノ如キ翼ヲ附ス）

勲一等



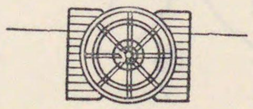
金色

勲二等



銀色

勲三等



銀色

勲四等

金色

勲五等

金色

勲六等

銀色

勲七等

勲八等

婦人ノ勲労アル者ニ瑞宝章ヲ賜フノ件

大勲位菊花章頸飾

附　則（大正十年四月二十六日閣令第四号）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　本令施行前授与セラレタル略綬ハ本令ニ規定スルモノト異ルモ当分ノ内仍之ヲ佩用スルコトヲ得

附　則（昭和十一年五月十九日閣令第一号）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　従前ノ略綬ハ当分ノ内仍之ヲ佩用スルコトヲ得

●婦人ノ勲労アル者ニ瑞宝章ヲ賜フノ件（大正八年五月二十二日勅令第二百三十二号）

朕婦人ノ勲労アル者ニ瑞宝章ヲ賜フノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

瑞宝章ハ婦人ノ勲労アル者ニ亦之ヲ賜フ

●文化勲章令（昭和十二年二月十一日勅令第九号）

朕文化勲章令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

文化勲章令

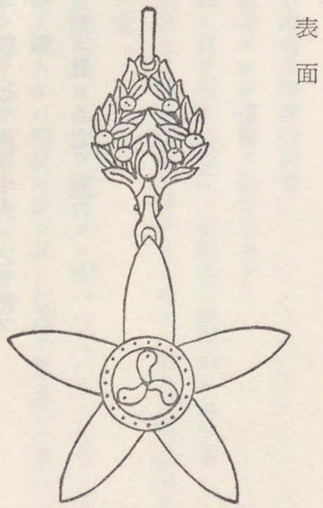
文化勲章ハ文化ノ発達ニ関シ勲績卓絶ナル者ニ之ヲ賜フ

文化勲章製式

章	金橘花径六・六糎　花弁白色盛上七宝、重廓間蕊金地濃藍色七宝、曲玉白色七宝、地赤色七宝
鈕	金橘葉実　葉緑色七宝、実淡緑色七宝
環	金小形楕円
綬	幅三・七糎　織地淡紫色

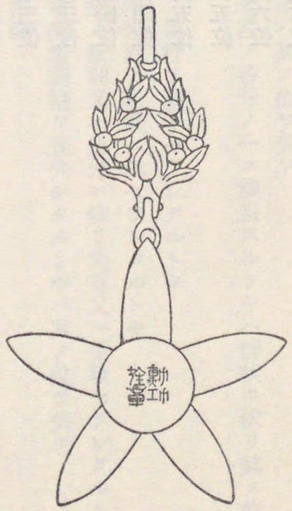
文化勲章

表面

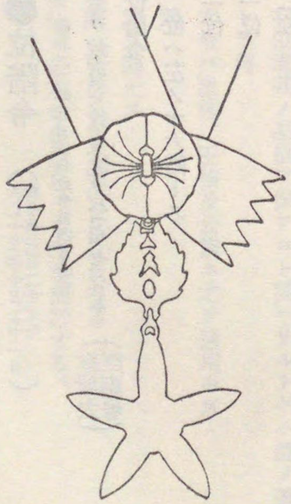


文化勲章令

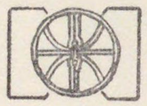
裏面



文化勲章綬



文化勲章略綬（淡紫色径一糎図ノ如キ同色ノ翼ヲ附ス）



文化勲章ハ綬ヲ以テ胸部中央ニ之ヲ佩ブ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

位階

●位階令（大正十五年十月二十一日勅令第三百二十五号）

〔沿革〕昭和二二年五月三日政令第四号改正

朕位階令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（総理大臣副署）

位階令

第一条　位ハ左ノ十六階トス

正一位
従一位
正二位
従二位
正三位
従三位
正四位
従四位
正五位
従五位
正六位
従六位
正七位
従七位
正八位
従八位

2　一位ハ親授二位以下四位以上ハ勅授五位以下ハ奏授トス

第二条　位ハ左ニ掲クル者ヲ叙ス

一　国家ニ勲功アリ又ハ表彰スヘキ效績アル者

二　削除

三　在官者及在職者

第三条　前条ニ掲クル者死亡シタル場合ニ於テハ特旨ヲ以テ其ノ死亡ノ日ニ遡リ位ヲ追賜スルコトアルヘシ

第四条　故人ニシテ勲績顕著ナル者ニハ特旨ヲ以テ位ヲ贈ルコトアルヘシ

第五条　有位者ハ其ノ位ニ相当スル礼遇ヲ享ク

第六条　有位者左ノ各号ノ一ニ該当スルトキハ其ノ礼遇ヲ享クルコトヲ得ス

一　禁治産者及準禁治産者

二　破産者ニシテ復権ヲ得サルモノ

三　刑事ノ訴ヲ受ケ勾留又ハ保釈若ハ責付中ニ在ル者

四　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第七条　有位者其ノ品位ヲ保ツコト能ハス又ハ其ノ体面ヲ汚辱スル失行アリタルトキハ情状ニ依リ其ノ礼遇ヲ停止若ハ禁止シ又ハ位ヲ失ハシム

第八条　有位者死刑、懲役又ハ無期若ハ三年以上ノ禁錮ニ処セラレタルトキハ其ノ位ヲ失フ

2　有位者左ノ各号ノ一ニ該当スルトキハ情状ニ依リ其ノ位ヲ失ハシム

一　刑ノ執行ヲ猶予セラレタルトキ

二　三年未満ノ禁錮ニ処セラレタルトキ

三　懲戒ノ裁判又ハ処分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

第九条　有位者国籍ヲ喪失シタルトキハ其ノ位ヲ失フ

第十条　削除

第十一条　削除

第十二条　有位者其ノ品位ヲ保ツコト能ハサルトキハ位ノ返上ヲ請願スルコトヲ得

第十三条　本令ハ皇族、王族及公族ニ之ヲ適用セス

附　則

叙位条例ハ之ヲ廃止ス

附　則（昭和二十二年五月三日政令第四号）

この政令は、公布の日から、これを施行する。

位階令施行細則

（大正十五年十月二十一日 閣令第六号）

〔沿革〕昭和二二年五月三日総理庁令第一号改正

位階令施行細則左ノ通定ム

位階令施行細則

第一条 裁判所（領事裁判権ヲ有スル領事官ヲ含ム）左ノ各号ノ一ニ該当スル裁判ヲ為シタル場合ニ於テ之ヲ受ケタル者カ有位者ナルコトヲ知リ得タルトキハ遅滞ナク其ノ旨内閣総理大臣ニ報告スヘシ

一 禁治産又ハ準禁治産ノ宣告

二 禁治産又ハ準禁治産ノ宣告ノ取消

三 破産ノ宣告

四 破産者ニ対スル復権

第二条 裁判所（領事裁判権ヲ有スル領事官ヲ含ム）被告人ヲ勾留シタル場合ニ於テ勾留セラレタル者カ有位者ナルコトヲ知リ得タルトキハ遅滞ナク其ノ旨内閣総理大臣ニ報告スヘシ勾留ヲ取消シ又ハ勾留ノ効力消滅シタルトキ亦同シ

第三条 裁判所（領事裁判権ヲ有スル領事官ヲ含ム以下之ニ同シ）禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ為シタル場合ニ於テ之ヲ受ケタル者カ有位者ナルコトヲ知リ得タルトキハ刑ノ言渡確定シタル場合ヲ除キ遅滞ナク其ノ旨内閣総理大臣ニ報告スヘシ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ対シ無罪、免訴、刑ノ免除、公訴棄却又ハ罰金以下ノ刑ノ言渡ヲ為シタルトキ亦同シ

2 前項ノ規定ニ依リ報告シタル有位者ニ対シ刑ノ言渡確定前大赦又ハ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ為シタル裁判所ノ検事（検察官及領事官ヲ含ム以下之ニ同シ）ハ遅滞ナク其ノ旨内閣総理大臣ニ報告スヘシ

第四条 位階令第八条第一項又ハ同条第二項第一号若ハ第二号ノ場合ニ於テハ確定裁判ヲ為シタル裁判所ハ遅滞ナク判決ノ謄本又ハ抄本ヲ添ヘ別記書式ニ依リ内閣総理大臣ニ報告スヘシ

第五条 位階令第八条第二項第三号ノ場合ニ於テハ確定懲戒裁判ヲ為シタル懲戒裁判所ノ長官若ハ検察官又ハ懲戒懲罰ノ処分ヲ為シタル官庁ハ遅滞ナク判決ノ謄本又ハ懲戒懲罰事由明細書ヲ添ヘ別記書式ニ準シ内閣総理大臣ニ報告スヘシ

第六条 位階令第八条第一項ノ規定ニ該当スル者ヲ除クノ外第四条又ハ前条ノ規定ニ依リ報告シタル有位者ニ対シ失位ニ関スル決定前大赦、刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦又ハ懲戒若ハ懲罰ノ免除アリタルトキハ確定裁判ヲ為シタル裁判所ノ検事、確定懲戒裁判ヲ為シタル懲戒裁判所ノ長官若ハ検察官又ハ懲戒懲罰ノ処分ヲ為シタル官庁ハ遅滞ナク其ノ旨内閣総理大臣ニ報告スヘシ

第七条 市町村長（之ニ準シ戸籍事務ヲ管掌スル者ヲ含ム）国籍喪失ノ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ国籍喪失者カ有位者ナルコトヲ知リ得タルトキハ遅滞ナク其ノ旨内閣総理大臣ニ報告スヘシ

第八条 有位者位階令第七条乃至第九条ノ規定ニ依リ其ノ位ヲ失ヒタルトキハ位記ヲ返上スヘシ

2 前項ノ規定ニ依リ返上スヘキ位記ハ内閣総理大臣ノ嘱託ニ依リ

失位者ノ現住所地ヲ管轄スル地方官庁（朝鮮、台湾、関東州、樺太及南洋群島ニ於ケル地方官庁ヲ含ム）之ヲ回収シ内閣官房長官ニ送付スヘシ

第九条 位階令第十二条ノ規定ニ依リ位ノ返上ヲ請願スル有位者ハ願書ニ返上ノ理由ヲ具シ位記ヲ添ヘ内閣総理大臣ニ提出スヘシ

第十条 削除

第十一条 有位者死亡シタルトキハ其ノ者ノ死亡当時同一戸籍ニ在リタル者ヨリ、氏名ヲ変更シタルトキハ本人ヨリ速ニ其ノ旨内閣官房長官ニ届出ツヘシ

附 則

叙位条例施行細則ハ之ヲ廃止ス

附 則（昭和二十二年五月三日総理庁令第一号）

この命令は、公布の日から、これを施行する。

（別 記）

書 式

本 籍
現住所
位勲功爵 氏 名
生年月日

一罪名
一刑名
一刑期
一裁判確定又ハ即決ノ言渡確定ノ年月日

位階令施行細則

一犯罪ノ情状其ノ他参考ト為ルヘキ事項
一位ヲ賜リタル当時ノ職業及年月日
一記章、褒章又ハ外国ノ勲章若ハ記章ヲ有スル者ナルトキハ其ノ種類

右位階令施行細則ニ依リ及報告候

年 月 日

官職 氏 名印

内閣総理大臣（宮内大臣） 宛

褒章

●褒章条例（明治十四年十二月七日太政官布告第六十三号）

〔沿革〕明治二三年五月二日勅令第七二号、七月一七日第一二六号、二七年一月六日第一号、大正七年九月一九日第三四九号、九年一月二九日第二四号、一〇年四月二六日第一四七号、一四年六月九日第二二二号、昭和二年二月一日第六号、九年一二月二六日第三九五号、一二年一二月一日第六八五号、三〇年一月二二日政令第七号改正

褒章条例別紙ノ通相定来明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉　勅旨布告候事

（別　紙）

褒章条例

第一条　凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者又ハ孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ徳行卓絶ナル者又ハ業務ニ精励シ衆民ノ模範タルヘキ者又ハ学術芸術上ノ発明改良創作ニ関シ事績著明ナル者又ハ教育衛生慈善防疫ノ事業、学校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ発達ニ関シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ労效顕著ナル者又ハ公益ノ為私財ヲ寄附シ功績顕著ナル者ヲ表彰スル為左ノ六種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

緑綬褒章

右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ徳行卓絶ナル者ニ賜フモノトス

黄綬褒章

右業務ニ精励シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

紫綬褒章

右学術芸術上ノ発明改良創作ニ関シ事績著明ナル者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右教育衛生慈善防疫ノ事業、学校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ発達ニ関シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ労效顕著ナル者ニ賜フモノトス

紺綬褒章

右公益ノ為私財ヲ寄附シ功績顕著ナル者ニ賜フモノトス

第二条　本条例ニ依リ表彰セラルヘキ者団体ナルトキハ褒状ヲ賜フ

第三条　已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ実行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇ヲ賜与シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

2　前項ノ飾版五箇以上ニ達シタルトキハ五箇毎ニ別種ノ飾版一箇ヲ引替ヘ賜与ス

第四条　褒章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用スルコトヲ得

第五条　第一条ノ規定ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者ニハ褒章ト金銀木杯又ハ金円トヲ併セ賜フコトアルヘシ

第六条　本条例ニ依リ表彰セラルヘキ者死亡シタルトキハ金銀木杯、金円又ハ褒状ヲ其遺族ニ賜ヒ之ヲ追賞ス

附　則（大正七年九月十九日勅令第三百四十九号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年一月二十九日勅令第二十四号）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　明治十六年太政官布告第一号ハ之ヲ廃止ス

附　則（大正十年四月二十六日勅令第百四十七号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十四年六月九日勅令第二百二十二号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二年二月一日勅令第六号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和九年十二月二十六日勅令第三百九十五号抄）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十二年十二月一日勅令第六百八十五号抄）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（後略）

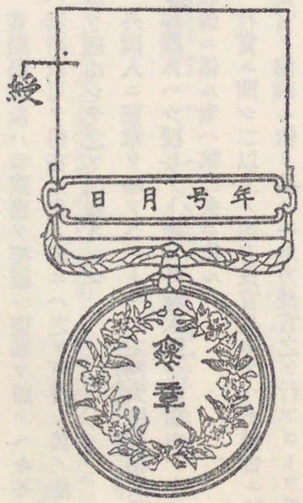
附　則（昭和三十年一月二十二日政令第七号）

この政令は、公布の日から施行する。

褒章ノ図

章	銀桜花紋円形径九分
鈕并飾版	銀但シ第三条第二項ノ飾版ハ金トス
綬	幅一寸　種類ニヨリ紅緑黄紫藍紺六色ノ別アリ

表

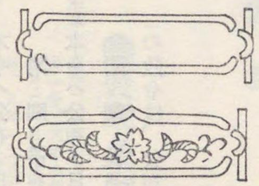


裏

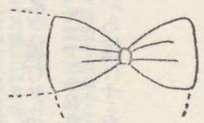
褒章条例取扱手続

飾版

（銀）（金）



略綬



褒章ノ種類ニ依リ紅緑黄紫藍紺六色ノ別アリ

備考

第三条第二項ノ飾版ヲ賜フトキハ褒章ノ裏面ニ引替ヘタル各飾版ノ賜与年月日ヲ記入ス

紺綬褒章ノ裏面ニハ前項ノ外文字ヲ記セス

佩用式

一褒章ハ左肋ノ辺ヘ佩フヘシ

●褒章条例取扱手続（明治二十七年一月六日閣令第一号）

〔沿革〕大正九年一月二九日閣令第一号、一四年六月九日第三号、昭和一二年一二月一日第六号、三〇年一月二二日総理府令第一号改正

明治十四年第百三号達褒章条例取扱手続左ノ通改正ス

褒章条例取扱手続

第一条 褒章条例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ地方長官主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ其ノ当否ヲ審査シ賞勲局総裁ヘ申牒スヘシ

第二条 賞勲局総裁ハ申牒書ヲ覆覈シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請裁可ヲ得在東京ノ者ニハ之ヲ直授シ其ノ他ノ者ニハ主務大臣ヲ経由シテ之ヲ伝達スヘシ

第三条 外国人ニ褒章ヲ賜フヘキトキハ主務大臣外務大臣ト連署シテ之ヲ申牒スヘシ授与ノトキハ外務大臣ヲ経由シテ之ヲ伝達ス其ノ公私傭ニ係ル者ハ第二条ニ依ル

第四条 行賞ニ関シ二以上ノ地方長官具申スヘキ場合ニ於テハ関係地方長官ノ協議ニ依リ其ノ一地方長官之ヲ行フコトヲ得

第五条 外国人ニ対スル金銀木杯、金円又ハ褒状ノ賜与ハ内国人ノ例ニ依ル但シ帝室ノ貴賓又ハ外国使臣ニ対スル賜与ハ外務大臣賞勲局総裁ヘ申牒スヘシ授与ノトキハ外務大臣ヲ経由シテ之ヲ伝達ス

第六条 褒章条例ニ依リ表彰セラルヘキ者具申後行賞前ニ於テ死亡シ又ハ罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ知リタルトキハ地方長官ハ速ニ其ノ旨主務大臣ニ申報シ主務大臣ハ之ヲ賞勲局総裁ニ通知スヘシ

第七条 本令中地方長官ノ職務ハ外国ニ在リテハ領事官之ヲ行フ

附　則（大正九年一月二十九日閣令第一号）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　明治十六年太政官達第十七号金銀木杯金円賜与手続及明治四十四年閣令第十三号ハ之ヲ廃止ス

附　則（大正十四年六月九日閣令第三号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十二年十二月一日閣令第六号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和三十年一月二十二日総理府令第一号）

この府令は、公布の日から施行する。

記　章

（従軍記章）

●明治七年従軍記章

参照勲章従軍記章制定（二頁）

●明治二十七八年従軍記章条例

（明治二十八年十月九日勅令第百四十三号）

朕明治二十七八年従軍記章条例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

明治二十七八年従軍記章条例

第一条 明治二十七年二十八年ノ戦捷ヲ表彰スル為メ特ニ従軍記章ヲ設ク

第二条 従軍記章ハ敵軍ヨリ奪獲シタル大礮ノ地金ヲ以テ製造ス其ノ図式左ノ如シ

章　銅、宝珠ノ形竪一寸一分横一寸表面ニ菊御紋及陸軍聯隊旗ト海軍軍艦旗ト交叉シタル図、裏面ニ明治二十七八年従軍記章ノ十一字ヲ識ス

鈕　銅、飾版ヲ附ス

綬　織地、幅一寸二分中央白両縁緑

明治二十七八年従軍記章条例

明治二十七八年従軍記章条例

第三条 従軍記章ハ左ニ掲クル者ニ授与ス

一 明治二十七年二十八年ノ戦役ニ於テ大本営ニ従属シ又ハ出征軍ニ編入セラレ戦地ニ在リシ者

二 同役ニ於テ出征軍ニ編入セラレサルモ戦地ニ在テ軍務ニ従事シタル陸海軍軍人軍属若クハ文官

但傭役人夫ノ類ハ授与ノ限ニ在ラス

第四条 第三条ニ掲クル者ニ該当セスト雖同役ノ軍務ニ従事シ若クハ之ヲ幇助シタル者ニハ特ニ従軍記章ヲ授与スルコトアルヘシ

第五条 第三条第四条ニ該当スル者ト雖開戦以後左ニ掲クル事項ノ一ニ該当スル者ニハ従軍記章ヲ授与セス

一 重禁錮以上ノ刑ニ処セラレタルトキ

二 軽禁錮ノ刑ヲ受ケ剝官ヲ附加セラレ若クハ官職ヲ失ヒタルトキ

三 懲戒処分ニ依リ免官セラレタルトキ

但処刑又ハ免官ノ後同役ノ軍務ニ従事シタル者ニハ特ニ之ヲ授与スルコトアルヘシ

第六条 従軍記章ノ褫奪及佩用停止ニ関シテハ（明治十六年第二十二号布告）ヲ適用ス

第七条 従軍記章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ許ス

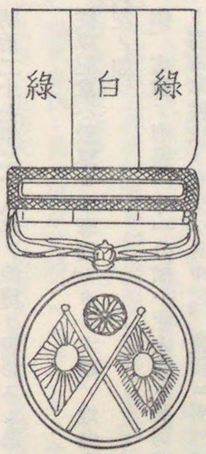
第八条 従軍記章ヲ授与セラルヘキ資格ヲ有スル者其ノ授与前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ遺族ニ付与シテ保存セシム

第九条 従軍記章ヲ授与セラレタル者ノ名簿ハ賞勲局ニ於テ之ヲ保存ス前条ニ依リ従軍記章ヲ付与セラレタル者ノ名簿亦同シ

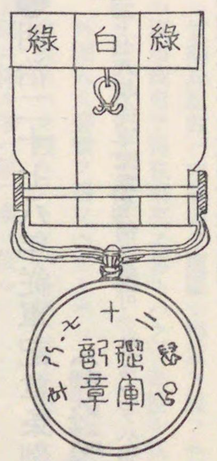
第十条 従軍記章ノ奏請及授与ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム

明治二十七八年従軍記章ノ図

表



裏



佩用式

一 明治二十七八年従軍記章ハ綬ヲ用キテ左肋ニ佩フ

●明治三十三年従軍記章条例

（明治三十五年四月二十一日勅令第百四十二号）

朕明治三十三年従軍記章条例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

明治三十三年従軍記章条例

第一条 明治三十三年清国事変ノ平定ニ関与シタル者ニ授与スル為従軍記章ヲ設ク

第二条 従軍記章ノ図式左ノ如シ

章　銅、円形径一寸表面ニ菊御紋及鳳凰ノ図ヲ鋳出シ中央ニ従軍記章ノ四字ヲ識シ裏面ニ大日本帝国明治三十三年ノ十一字ヲ識ス

飾版　銅、清国事変ノ四字ヲ識ス

鈕　銅

綬　織地、幅一寸二分地緑三線白

2 従軍記章ハ綬ヲ用キテ左肋ニ佩フ

第三条 従軍記章ハ左ニ掲クル者ニ授与ス但シ傭役人夫ノ類ハ此ノ限ニ在ラス

一 戦地ニ在リテ軍務ニ従事シタル陸海軍軍人軍属及文官並之ニ準スヘキ者

二 戦地ニ在リテ病傷者ノ救護ニ従事シタル者

三 戦地ニ臨マサルモ戦時編成部隊ニ編入セラレタル者

四 特別ノ任務ヲ受ケテ戦地ニ往復シタル陸海軍軍人軍属及文官、内地ニ在リテ事変ニ関スル軍務ニ従事シタル陸海軍軍人軍属、内地ニ在リテ病傷者ノ救護ニ従事シタル者及戦地ニ往復シタル運送船病院船ノ船員

2 前項第一号及第二号ニ依ルヘキ者ハ明治三十三年六月十一日ヨリ明治三十四年六月一日迄、第三号及第四号ニ依ルヘキ者ハ明治三十三年六月十一日ヨリ明治三十三年十一月三十日迄ノ間ニ於テ之ニ該当スル者ニ限ル

第四条 従軍記章ハ帝国ノ軍隊艦船ト聯合シタル外国ノ軍隊艦船所属ノ軍人軍属ニモ授与スルコトアルヘシ

第五条 第三条ニ該当スルモ左ニ掲クル事項ノ一ニ当ル者ニハ従軍記章ヲ授与セス但シ処刑又ハ免官ノ後第三条ニ該当シタル者ニハ特ニ之ヲ授与スルコトアルヘシ

一 重禁錮以上ノ刑ニ処セラレタルトキ

二 軽禁錮ノ刑ヲ受ケ剝官ヲ附加セラレ又ハ官職ヲ失ヒタルトキ

三 懲戒処分ニ依リ免官セラレタルトキ

第六条 従軍記章ノ褫奪及佩用停止ニ関シテハ【明治十六年第二十二号布告】ヲ準用ス

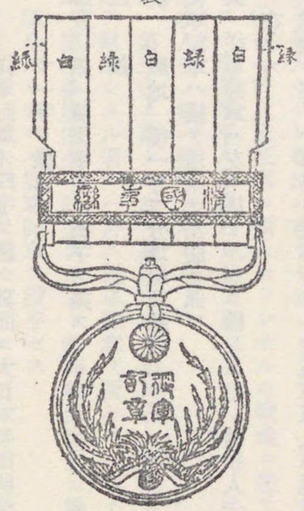
第七条 従軍記章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ許ス

第八条 従軍記章ヲ授与セラルヘキ者其ノ授与前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ遺族ニ付与シテ保存セシム

明治三十七八年従軍記章条例

第九条 従軍記章ヲ授与セラレタル者ノ名簿ハ賞勲局ニ於テ之ヲ保存ス前条ニ依リ従軍記章ヲ付与セラレタル者ノ名簿亦同シ

表



裏

明治三十七八年従軍記章条例

（明治三十九年三月三十一日勅令第五十一号）

朕明治三十七八年従軍記章条例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

明治三十七八年従軍記章条例

第一条 明治三十七八年戦役記念ノ表章トシテ特ニ従軍記章ヲ設ク

第二条 従軍記章ノ図式左ノ如シ

章　銅円形径一寸表面ニ菊及桐ノ御紋章並陸軍聯隊旗ト海軍軍艦旗ト交叉シタル図ヲ鋳出シ裏面ニ月桂樹ト戦捷草ヲ交叉シ中央ニ楯ヲ置キタル図ヲ鋳出シ楯ニ明治三十七八年戦役ノ八字ヲ識ス

飾版　銅表面ニ従軍記章ノ四字ヲ識ス

鈕　銅

綬　織地、幅一寸二分中央紺青其ノ左右緑両縁白

2

従軍記章ハ綬ヲ用ヰテ左肋ニ佩フ

第三条 従軍記章ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ授与ス

一　戦地ニ在リテ軍務ニ従事シタル陸海軍軍人軍属及文官

二　戦地ニ臨マサルモ動員部隊若ハ戦時特設部隊船舶ニ編入セラレ又ハ戦役ニ関スル陸海軍官用船舶ニ配置セラレタル陸海軍軍人軍属

三　特別ノ任務ヲ受ケテ戦地ニ往復シ又ハ戦地以外ニ在リテ戦役ニ関スル軍務ニ従事シタル陸海軍軍人軍属

四　戦地又ハ内地ニ在リテ陸海軍ノ監督ヲ受ケ傷病者ノ救護ニ従事シタル者

五　戦役ニ関スル陸海軍官用船舶又ハ病院船ノ船員

第四条 軍務ヲ幇助シ功績アル者及許可ヲ得テ従軍シタル者ニハ特ニ従軍記章ヲ授与スルコトアルヘシ

第五条 従軍記章ハ傭役人夫ノ類及之ニ準スヘキ下級船員等ニハ之ヲ授与セス但シ特種ノ軍務ニ服シ功績アル者ニ限リ特ニ之ヲ授与スルコトアルヘシ

第六条 左ニ掲クル事項ノ一ニ当ル者ニハ従軍記章ヲ授与セス但シ処刑、免官又ハ免職ノ後第三条又ハ第四条ニ該当スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　重禁錮以上ノ刑ニ処セラレタルトキ

二　軽禁錮ノ刑ヲ受ケ剝官ヲ附加セラレ又ハ官職ヲ失ヒタルトキ

三　懲戒処分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

第七条 従軍記章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ得

第八条 従軍記章ノ褫奪及佩用停止ニ関シテハ【明治十六年第二十二号布告】ヲ準用ス

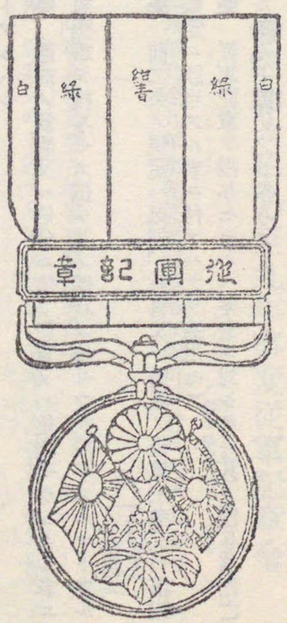
第九条 従軍記章ヲ授与セラルヘキ者其ノ授与前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ遺族ニ交付シテ保存セシム

第十条 従軍記章ヲ授与セラレタル者ノ名簿ハ賞勲局ニ於テ之ヲ保存ス前条ニ依リ従軍記章ヲ交付セラレタル者ノ名簿亦同シ

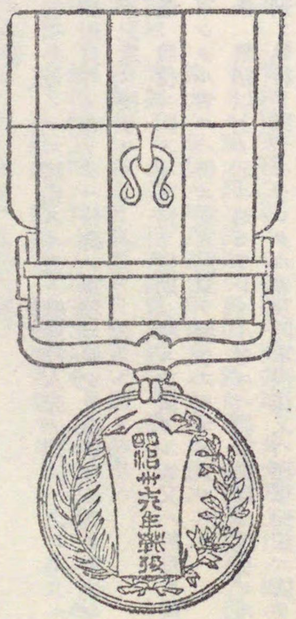
明治三十七八年従軍記章条例

明治三十七八年従軍記章ノ図

表



裏



●大正三年乃至九年戦役従軍記章令

（大正四年十一月六日勅令第二百三号）

〔沿革〕大正九年三月十日勅令第四一号改正

朕大正三四年従軍記章令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム　（総理大臣副署）

大正三年乃至九年戦役従軍記章令

第一条　大正三年乃至九年戦役記念ノ表章トシテ特ニ従軍記章ヲ設ク

第二条　従軍記章ノ図式左ノ如シ

章　銅円形径一寸表面上部ニ菊御紋章中央ニ陸軍聯隊旗及海軍軍艦旗ノ交架下部両側ニ桐樹ノ花枝ノ図ヲ鋳出シ裏面ニ大正三四年戦役ノ七字ヲ識ス但シ大正九年二月以後ニ於テ授与スル従軍記章ノ裏面ノ文字ハ大正三年乃至九年戦役ノ十字トス

飾版　銅表面ニ従軍記章ノ四字ヲ識ス

鈕　銅

綬　織地幅一寸二分中央白左右紺青

2　従軍記章ハ綬ヲ用ヰテ左肋ニ佩フ

第三条　従軍記章ハ左ノ各号ノ一ニ該当スル者ニ之ヲ授与ス

一　戦地ニ在リテ軍務ニ従事シ又ハ軍事ニ関スル特別ノ任務ヲ受ケテ戦地ニ往復シタル陸軍軍人軍属及文官

二　戦地ニ臨マサルモ動員部隊若ハ戦役ノ為臨時編成シタル部隊ニ編入セラレ又ハ戦役ニ関スル軍務ニ従事シタル陸海軍軍人軍属

三　戦役ニ関スル軍務ニ従事シタル陸海軍官用船舶又ハ病院船ノ乗組船員

四　陸海軍官憲ノ監督ヲ受ケ戦役ニ関スル傷病者ノ救護ニ従事シタル者

2　前項各号ノ一ニ該当スル者ト雖傭役人夫ノ類又ハ之ニ準スヘキ下級船員等ニ在リテハ特殊ノ軍務ニ服シ且功績アル者ニ非サレハ従軍記章ヲ授与セス

第四条　戦役ニ関スル軍務ヲ幇助シ特ニ功績アル者又ハ許可ヲ得テ従軍シタル者ニハ特ニ従軍記章ヲ授与スルコトアルヘシ

第五条　禁錮以上ノ刑ニ処セラレタル者ニハ従軍記章ヲ授与セス但シ刑ノ執行ヲ猶予セラレタル者及陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依リ一年未満ノ禁錮ニ処セラレタル者ニハ其ノ情状ニ依リ之ヲ授与スルコトアルヘシ

第六条　懲戒ノ裁判又ハ処分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者ニハ従軍記章ヲ授与セス但シ其ノ情状ニ依リ之ヲ授与スルコトアルヘシ

第七条　前二条ノ規定ハ処刑、免官又ハ免職ノ後第三条又ハ第四条ノ規定ニ該当スル者ニ付テハ之ヲ適用セス

第八条　従軍記章ヲ授与セラルヘキ者ニ対シテハ其ノ授与前死亡シタルトキト雖仍之ヲ授与ス

第九条　従軍記章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存スルコトヲ許ス

附　則

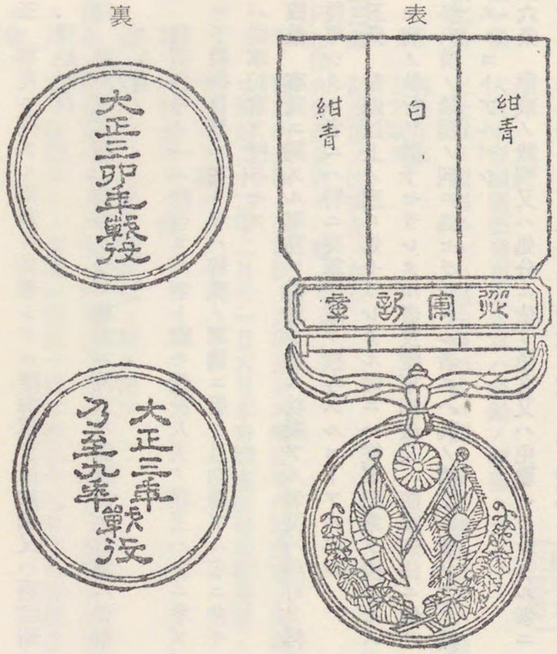
1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　裏面ニ大正三年乃至九年戦役ノ文字ヲ識シタル従軍記章ヲ授与セラレタル者ハ裏面ニ大正三四年戦役ノ文字ヲ識シタル従軍記章ヲ佩用スルコトヲ得ス

附　則（大正九年三月十日勅令第四十一号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年乃至九年戦役従軍記章ノ図



昭和六年乃至九年事変従軍記章令

●昭和六年乃至九年事変従軍記章令

（昭和九年七月二十三日勅令第二百二十五号）

朕昭和六年乃至九年事変従軍記章令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム　（総理大臣副署）

昭和六年乃至九年事変従軍記章令

第一条　昭和六年乃至九年事変従軍記章令

昭和六年乃至九年事変記念ノ表章トシテ特ニ従軍記章ヲ設ク

第二条　従軍記章ノ図式左ノ如シ

章　青銅円形径三糎トシ表面ニ菊御紋、背光及上代ノ楯ニ止リタル鵄ノ図ヲ鋳出シ裏面ニ陸海軍ノ鉄兜及桜花ノ図ヲ鋳出シ昭和六年乃至九年事変ノ十字ヲ識ス

飾版　青銅トシ表面ニ従軍記章ノ四字ヲ識ス

鈕　青銅トシ表面及裏面ニ日蔭蔓ノ図ヲ鋳出ス

綬　織地幅三糎六粍トシ中央濃紅色、其ノ左右内側ヨリ各黄色、浅紅色、緋褪色、紅海老茶色トス

2　従軍記章ハ綬ヲ用ヒテ左肋ニ佩ブ

第三条　従軍記章ハ左ノ各号ノ一ニ該当スル者ニ之ヲ授与ス

一　事変地ニ在リテ軍務ニ従事シ又ハ軍事ニ関スル特別ノ任務ヲ受ケテ事変地ニ往復シタル陸海軍軍人軍属及文官

二　事変地ニ臨マザルモ動員部隊若ハ事変ノ為臨時編成シタル部隊ニ編入セラレ又ハ事変ニ関スル軍務ニ従事シタル陸海軍軍人

昭和六年乃至九年事変従軍記章令

軍属

三　事変ニ関スル軍務ニ従事シタル陸海軍官用船舶又ハ病院船ノ乗組船員

四　陸海軍官憲ノ監督ヲ受ケ事変ニ関スル傷病者ノ救護ニ従事シタル者

2　前項各号ノ一ニ該当スル者ト雖モ傭役人夫ノ類又ハ之ニ準ズベキ下級船員等ニ在リテハ特殊ノ軍務ニ服シ且功績アル者ニ非ザレバ従軍記章ヲ授与セズ

第四条　事変ニ関スル軍務ヲ幇助シ特ニ功績アル者又ハ許可ヲ得テ従軍シタル者ニハ特ニ従軍記章ヲ授与スルコトアルベシ

第五条　禁錮以上ノ刑ニ処セラレタル者ニハ従軍記章ヲ授与セズ但シ刑ノ執行ヲ猶予セラレタル者及陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依リ一年未満ノ禁錮ノ刑ニ処セラレタル者ニハ其ノ情状ニ依リ之ヲ授与スルコトアルベシ

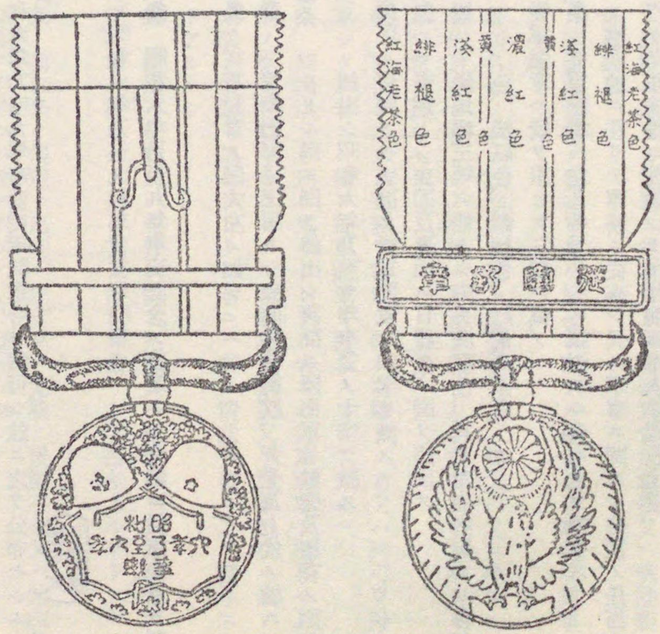
第六条　懲戒ノ裁判又ハ処分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者ニハ従軍記章ヲ授与セズ但シ其ノ情状ニ依リ之ヲ授与スルコトアルベシ

第七条　前二条ノ規定ニ処刑、免官又ハ免職ノ後第三条又ハ第四条ノ規定ニ該当スル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第八条　従軍記章ヲ授与セラルベキ者ニ対シテハ其ノ授与前死亡シタルトキト雖モ仍之ヲ授与ス

第九条　従軍記章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存スルコトヲ許ス

表　　裏



昭和六年乃至九年事変従軍記章ノ図

（記念章）

●帝国憲法発布記念章制定ノ件

（明治二十二年八月三日勅令第百三号）

朕帝国憲法発布記念章制定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

第一条　大日本帝国憲法発布記念章ハ金銀ノ両種トス

第二条　記念章ヲ頒賜スルハ憲法発布式ニ関リタル親王以下ノ諸員ニ限ル（判任官以下ヲ除ク）

第三条　記念章ノ図式左ノ如シ

円形径九分余金若クハ銀

章　輪廓内表面ニ菊御紋ト高御座並大勲位菊花頸飾章ノ図裏面ニ明治二十二年二月十一日大日本帝国憲法発布記念章ノ二十三字ヲ識ス

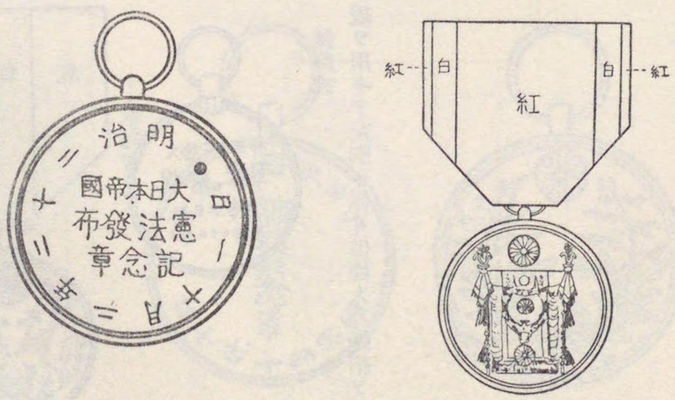
環　円形金若クハ銀

綬　幅一寸二分旭日桐花章ノ綬ヲ用フ

第四条　記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルヲ許ス其ノ之ヲ没収スルノ事項ハ明治十四年第六十三号布告褒章条例ニ依ル

帝国憲法発布記念章制定ノ件

表　　裏



記念章ノ図

佩用式

一　綬ヲ用テ左胸ニ佩フ

一　記念章ヲ四等以下ノ勲章若クハ記章褒章ト併佩スル時ハ勲章ノ左記章褒章ノ右ニ列シテ佩フヘシ

●大婚二十五年祝典之章制定ノ件

（明治二十七年三月六日 勅令第二十三号）

朕大婚二十五年祝典之章制定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

第一条 大婚二十五年祝典之章ハ金銀ノ両種トス

第二条 祝典之章ハ大婚二十五年祝典ノ当日召ニ依リ参内シタル者ニ頒賜ス

第三条 祝典之章ノ図式左ノ如シ

円形径九分余金若クハ銀

章　輪廓内表面ニ菊御紋ト双鶴松ヲ銜ミ左右交架藤花ノ図、裏面ニ大婚二十五年祝典之章、大日本帝国、明治二十七年三月ノ二十三字ヲ識ス

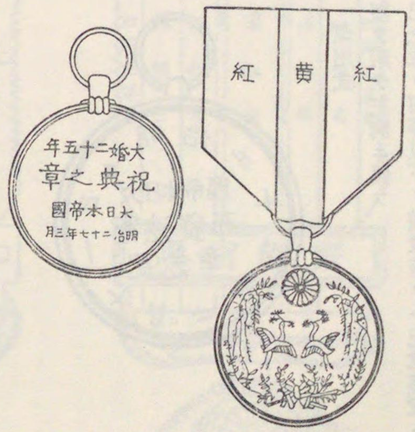
環　円形金若クハ銀

綬　紅色、中央ニ黄線一条ヲ交フ

第四条 祝典之章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ許ス其ノ没収ニ関シテハ明治十四年第六十三号布告褒章条例ニ依ル

祝典之章ノ図

表



裏

佩用式

一　綬ヲ用ヰテ左胸ニ佩フ但婦人ハ蝶結ヲ用ウ

●皇太子渡韓記念制定ノ件

（明治四十二年三月二十九日 勅令第四十二号）

朕皇太子渡韓記念章制定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

第一条 皇太子渡韓記念章ハ金銀ノ両種トス

第二条 記念章ハ明治四十年十月皇太子渡韓ニ関リタル日韓両国ノ皇族及奏任官以上ノ者ニ之ヲ頒賜ス

第三条 記念章ノ図式左ノ如シ

章　円形径一寸輪廓内表面ニ菊御紋ト檀樹ノ花枝ヲ交叉シタル図裏面上縁ニ大日本国皇太子中央ニ渡韓記念章下縁ニ明治四十年十月ノ十九字ヲ識ス

環　円形

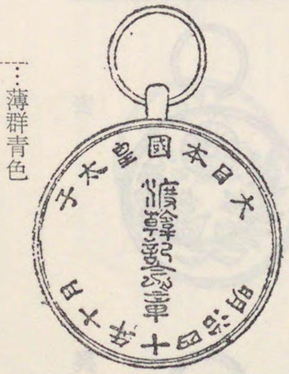
綬　織地幅一寸二分中央薄群青色其ノ左右黄色両縁薄群青色記念章ハ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第四条 記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ許ス

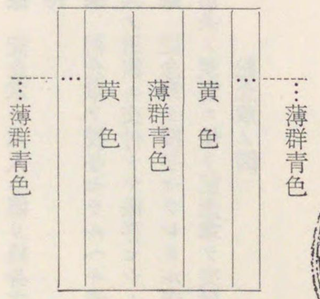
記念章ノ図

表

裏



綬



●韓国併合記念制定ノ件

（明治四十五年三月二十九日 勅令第五十六号）

朕韓国併合記念章制定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム　（総理大臣副署）

第一条　韓国併合記念ノ表章トシテ特ニ記念章ヲ設ク

第二条　記念章ノ図式左ノ如シ

章　黄銅円形径一寸輪廓内表面上部ニ菊御紋、両側縁ニ桐樹及李樹ノ花枝ノ図、裏面上部ニ明治四十三年、下部ニ八月二十九日、中央ニ韓国併合記念章ノ文字ヲ識ス

環　銀円形

綬　織地幅一寸二分、中央紅色、其ノ左右黄色、両縁白色

2　記念章ハ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第三条　記念章ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ授與ス

一　韓国併合ノ事業ニ直接関与シタル者及韓国併合ノ事業ニ伴フ要務ニ関与シタル者

二　韓国併合ノ際朝鮮ニ在勤シタル官吏及官吏待遇者並韓国併合ノ際ニ於ケル韓国政府ノ官吏及官吏待遇者

三　従前日韓関係ニ於テ功績アリタル者

第四条　左ニ掲クル事項ノ一ニ該当スル者ニハ記念章ヲ授与セス但シ処刑、免官又ハ免職ノ後前条ニ該当スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　禁錮又ハ禁獄以上ノ刑ニ処セラレタルトキ

二　懲戒処分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

第五条　記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ得

第六条　記念章ヲ授与セラルヘキ者其ノ授与前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ遺族ニ交付シテ保存セシム

第七条　記念章ヲ授与セラレタル者ノ名簿ハ賞勲局ニ於テ之ヲ保存ス前条ノ規定ニ依リ記念章ヲ交付セラレタル者ノ名簿亦同シ

記念章ノ図

綬

白色	黄色	紅色	黄色	白色

表

裏

●大礼記念章制定ノ件

（大正四年八月十三日 勅令第百五十四号）

朕大礼記念章制定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム　（総理大臣副署）

第一条　大礼記念ノ表章トシテ記念章ヲ設ク

第二条　記念章ノ図式左ノ如シ

章　銀円形径一寸輪廓内表面上部ニ金菊御紋、両側縁ニ桜橘枝ト万歳旛交架ノ図、裏面ニ大礼記念章大正四年十一月ノ文字ヲ識ス

環　銀彎形

綬　織地幅一寸二分、中央紅色、両縁白色紅線

2　記念章ハ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第三条　記念章ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ授与ス

一　践祚ノ式ニ召サレタル者

二　即位礼及大嘗祭ノ式ニ召サレタル者

三　各所在地ニ於テ饗饌ヲ賜リタル者

四　大礼ノ事務及大礼ニ伴フ要務ニ関与シタル者

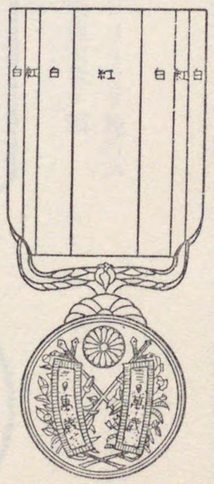
第四条　記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫ヲシテ之ヲ保存セシム

第五条　記念章ヲ授与セラルヘキ者其ノ授与前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ家督相続人又ハ戸主ニ交付シテ保存セシム

大礼記念章ノ図

綬

表面



裏面

●大礼記念章制定ノ件

（昭和三年八月一日 勅令第百八十八号）

朕大礼記念章制定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

第一条 昭和三年十一月行ハルル大礼記念ノ表章トシテ記念章ヲ設ク

第二条 記念章ノ図式左ノ如シ

章 銀円形、径一寸トス

表面ニハ輪廓内中央ニ高御座、其ノ中心ニ金菊御紋、周辺ニ桜橘文様、左右空間ニ雲文ヲ置キ下方ニ万歳ノ文字ヲ識ス

裏面ニハ輪廓ニ菊花形、中央ニ旗形、其ノ左右ニ雲文ヲ置キ旗形ノ内ニ大礼記念章、下方ニ昭和三年十一月ノ文字ヲ識ス

環 銀円形トス

綬 織地、幅一寸二分、青黄赤白紫色ノ等分トス

2 記念章ハ綬ヲ以テ左肋ニ佩ブ

第三条 記念章ハ左ニ掲グル者ニ之ヲ授与ス

一 践祚ノ式ニ召サレタル者

二 即位礼及大嘗祭ノ式ニ召サレタル者

三 各所在地ニ於テ饗饌ヲ賜リタル者

四 大礼ノ事務及大礼ニ伴フ要務ニ関与シタル者

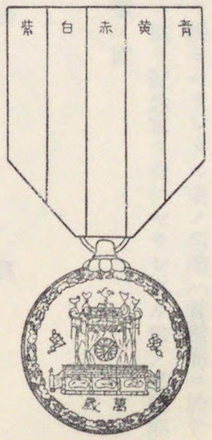
第四条 記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫ヲシテ之ヲ保存セシム

第五条 記念章ヲ授与セラルベキ者其ノ授与前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ家督相続人又ハ戸主ニ交付シテ保存セシム

大礼記念章ノ図

綬

表面



裏面

●戦捷記章令

（大正九年九月十七日 勅令第四百六号）

朕戦捷記章令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

戦捷記章令

第一条 大正三年乃至九年戦役ノ同盟及聯合国勝利記念ノ国際表章トシテ特ニ戦捷記章ヲ設ク

第二条 戦捷記章ノ図式左ノ如シ

章 青銅円形径一寸二分表面ニ武甕槌神像ヲ表シ裏面ニ桜花ノ図、地球ノ図並日本国、亜米利加合衆国、英帝国、仏蘭西国及伊太利国ノ国旗ノ図ヲ表シ文明擁護之大戦日米英仏伊其他同盟及聯合国自大正三年至大正九年ノ三十字ヲ識ス

綬 織地幅一寸二分両縁白線二箇ノ虹ヲ赤色ヲ中央トシテ並置ス

2 戦捷記章ハ綬ヲ用ヰテ左肋ニ佩フ

第三条 戦捷記章ハ大正三年八月二十三日ヨリ大正九年一月九日迄ノ間ニ於テ戦役ニ関スル軍務ニ従事シ功績顕著ナル戦闘員ニ之ヲ授与ス

第四条 禁錮以上ノ刑ニ処セラレタル者ニハ戦捷記章ヲ授与セス但シ刑ノ執行ヲ猶予セラレタル者及陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依リ一年未満ノ禁錮ニ処セラレタル者ニハ其ノ情状ニ依リ之ヲ授与スルコトアルヘシ

第五条 懲戒ノ裁判又ハ処分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者ニハ戦捷記章ヲ授与セス但シ其ノ情状ニ依リ之ヲ授与スルコトアルヘシ

第六条 前二条ノ規定ハ処刑、免官又ハ免職ノ後第三条ノ規定ニ該当スル者ニ付テハ之ヲ適用セス

戦捷記章令

第七条 戦捷記章ヲ授与セラルヘキ者ニ対シテハ其ノ授与前死亡シタルトキト雖仍之ヲ授与ス

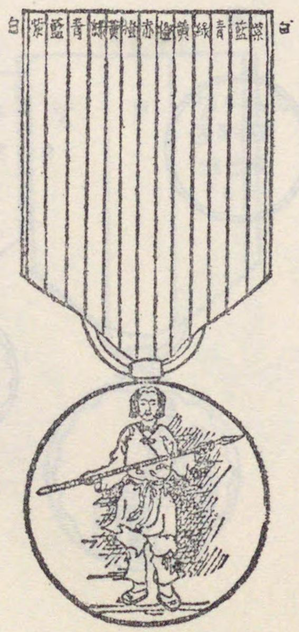
第八条 戦捷記章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存スルコトヲ許ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

戦捷記章ノ図

表



裏

●第一回国勢調査記念章制定ノ件

（大正十年六月十七日 勅令第二百七十二号）

朕第一回国勢調査記念章制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

第一条 第一回国勢調査実施記念ノ表章トシテ特ニ記念章ヲ設ク

第二条 記念章ノ図式左ノ如シ

章 青銅円形径一寸表面菊花輪廓内ニ戸籍ノ巻物ヲ手ニセル大化年間ノ国司ノ立像ヲ表シ裏面ニ国勢調査記念章大正九年十月一日ノ文字ヲ識ス

綬 織地幅一寸二分中央白左右紫両縁白

2 記念章ハ綬ヲ用キテ左肋ニ佩フ

第三条 記念章ハ左ノ各号ノ一ニ該当スル者ニ之ヲ授与ス

一 第一回国勢調査ノ事業ニ直接関与シタル者

二 第一回国勢調査ノ事業ニ伴フ要務ニ関与シタル者

第四条 左ノ各号ノ一ニ該当スル者ニハ記念章ヲ授与セス但シ処刑、免官又ハ免職ノ後前条ニ該当スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 禁錮以上ノ刑ニ処セラレタル者

二 懲戒ノ裁判又ハ処分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者

第五条 記念章ヲ授与セラルヘキ者ニ対シテハ其ノ授与前死亡シタルトキト雖仍之ヲ授与ス

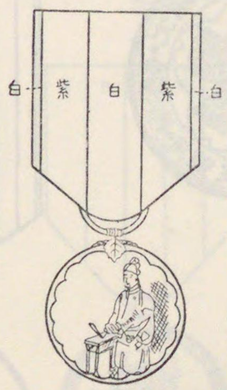
第六条 記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存スルコトヲ許ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一回国勢調査記念章ノ図

表



裏

●朝鮮昭和五年国勢調査記念章令

（昭和七年七月十八日 勅令第百四十五号）

朕朝鮮昭和五年国勢調査記念章令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

朝鮮昭和五年国勢調査記念章令

第一条 朝鮮ニ於ケル昭和五年国勢調査実施記念ノ表章トシテ特ニ記念章ヲ設ク

第二条 記念章ノ図式左ノ如シ

章 青銅円形径三糎表面菊花輪廓内ニ戸籍ノ巻物ヲ手ニセル大化年間ノ国司ノ立像ヲ表シ裏面ニ朝鮮国勢調査記念章昭和五年十月一日ノ文字ヲ識ス

綬 織地幅三糎六粍中央白左右紫両縁白

2 記念章ハ綬ヲ用ヒテ左肋ニ佩ブ

第三条 記念章ハ左ノ各号ノ一ニ該当スル者ニ之ヲ授与ス但シ大正十年勅令第二百七十二号ニ依ル第一回国勢調査記念章ヲ授与セラレタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 朝鮮ニ於ケル昭和五年国勢調査ノ事業ニ直接関与シタル者

二 朝鮮ニ於ケル昭和五年国勢調査ノ事業ニ伴フ要務ニ関与シタル者

第四条 左ノ各号ノ一ニ該当スル者ニハ記念章ヲ授与セズ但シ処刑、免官又ハ免職ノ後前条ニ該当スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 禁錮以上ノ刑ニ処セラレタル者

二 懲戒ノ裁判又ハ処分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者

第五条 記念章ヲ授与セラルベキ者ニ対シテハ其ノ授与前死亡シタルトキト雖仍之ヲ授与ス

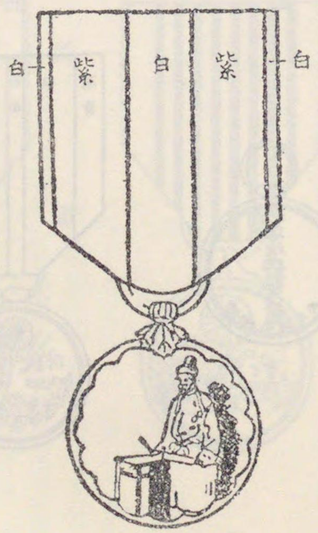
第六条 記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存スルコトヲ許ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮昭和五年国勢調査記念章ノ図

表



裏

●帝都復興記念章令

（昭和五年八月十三日 勅令第百四十八号）

朕帝都復興記念章令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム　（総理大臣副署）

帝都復興記念章令

第一条　帝都復興記念ノ表章トシテ特ニ記念章ヲ設ク

第二条　記念章ノ図式左ノ如シ

章　銀円形、径三糎トス

表面ニハ輪廓内上部ニ菊御紋、中央ニ市街ト旭光ノ図、下部ニ桜ノ模様ヲ表シ裏面ニハ輪廓内中央ニ帝都復興記念章ノ文字、下部ニ昭和五年三月ノ文字ヲ識ス

環　銀円形トス

綬　織地、幅三糎六粍トス

中央萌黄色、左右白色、両縁萌黄色トス

2　記念章ハ綬ヲ用ヒテ左肋ニ佩ブ

第三条　記念章ハ左ノ各号ノ一ニ該当スル者ニ之ヲ授与ス

一　帝都復興ノ事業ニ直接関与シタル者

二　帝都復興ノ事業ニ伴フ要務ニ関与シタル者

第四条　左ノ各号ノ一ニ該当スル者ニハ記念章ヲ授与セズ但シ処刑、免官又ハ免職ノ後前条ニ該当スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　禁錮以上ノ刑ニ処セラレタル者

二　懲戒ノ裁判又ハ処分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者

第五条　記念章ヲ授与セラルベキ者ニ対シテハ其ノ授与前死亡シタルトキト雖モ仍之ヲ授与ス

第六条　記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存スルコトヲ許ス

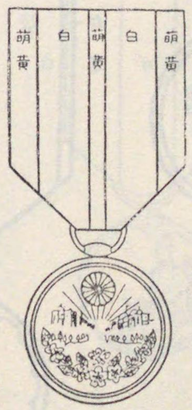
附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

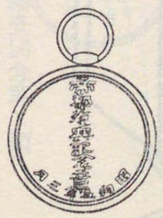
帝都復興記念章ノ図

綬

表面



裏面



●紀元二千六百年祝典記念章令

（昭和十五年七月二十七日 勅令第四百八十八号）

朕枢密顧問ノ諮詢ヲ経テ紀元二千六百年祝典記念章令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム　（総理大臣副署）

紀元二千六百年祝典記念章令

第一条　紀元二千六百年祝典記念ノ表章トシテ記念章ヲ設ク

第二条　記念章ノ図式左ノ如シ

章　アルミニウム青銅円形径三糎トス

表面ニハ輪廓内ニ菊御紋、賢所、皇霊殿、神殿及宮城ノ図ヲ表シ裏面ニハ輪廓内中央ニ紀元二千六百年祝典記念章ノ文字、下部ニ昭和十五年ノ文字ヲ識ス

環　アルミニウム青銅円形トス

綬　織地幅三糎六粍トス

空色ニ八条ノ紅線トス

2　記念章ハ綬ヲ用ヒテ左肋ニ佩ブ

第三条　記念章ハ左ニ掲グル者ニ之ヲ授与ス

一　昭和十五年紀元節祭ニ召サレタル者

二　紀元二千六百年式典ニ招カレタル者

三　祝典ノ事務及祝典ニ伴フ要務ニ関与シタル者

2　前項ニ規定スル者以外ノ者ニモ特ニ記念章ヲ授与スルコトアルベシ

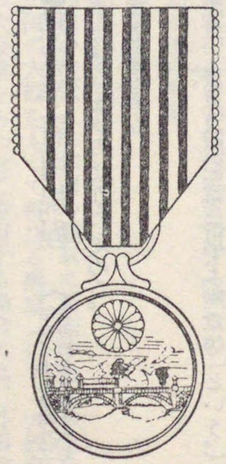
紀元二千六百年祝典記念章令

第四条　記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫ヲシテ之ヲ保存セシム

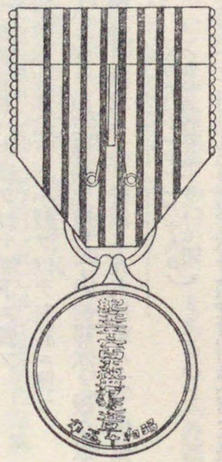
第五条　記念章ヲ授与セラルベキ者其ノ授与前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ家督相続人又ハ戸主ニ交付シテ保存セシム

紀元二千六百年祝典記念章ノ図

表面



裏面



佩用

（勲章等）

●勲章佩用式（明治二十一年十一月十七日 勅令第七十六号）

〔沿革〕明治二三年一〇月二日勅令第一〇八号、大正八年五月二二日第二三三号改正

朕勲章佩用式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（総理大臣副署）

勲章佩用式

第一条　大勲位菊花章

菊花章ハ頸飾ヲ以テ喉下ニ佩ヒ其副章ヲ左肋ニ佩フ大綬ヲ以テ佩フル時ハ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ハ左肋ニ佩フ但菊花章ヲ賜ヒタル者ハ旭日桐花大綬章瑞宝一等章ヲ併セ佩フルコトヲ得

第二条　宝冠章

一　勲一等宝冠章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二　勲二等宝冠章以下ハ結蝶状ノ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第三条　旭日章

一　勲一等旭日桐花章並ニ旭日章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二　勲二等旭日章ハ右肋ニ佩ヒ其副章ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

三　勲三等旭日章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

四　勲四等勲五等勲六等旭日章勲七等勲八等桐葉章ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第四条　瑞宝章

一　勲一等瑞宝章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二　勲二等瑞宝章ハ右肋ニ佩フ

三　勲三等瑞宝章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

四　勲四等瑞宝章以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

五　婦人ニ賜フ勲三等瑞宝章以下ハ結蝶状ノ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第五条　別種ノ勲章ハ之ヲ併佩ス其大綬章ハ之ヲ併佩セス

（明治二十一年十一月十九日 賞勲局告示第一号）

明治二十一年十一月勅令第七十六号勲章佩用式第三条第二項ニアル勲二等旭日章ノ副章ハ其製式勲三等旭日章ニ異ナルコトナシ

●勲章等着用規程（昭和三十九年四月二十八日 総理府告示第十六号）

勲章等着用規程を次のように定める。

勲章等着用規程

（総則）

第一条　勲章、褒章及び記章（以下「勲章等」という。）の着用については、別に定める場合を除き、この規程の定めるところによる。

（勲章等を着用する場合）

第二条　国、地方公共団体その他の公の機関の行なう式典には、勲章等を着用するを例とする。

（勲章等を着用する場合の服装）

第三条　勲章等は、燕尾服若しくはローブデコルテ又はこれらに相当する制服に着用するものとする。ただし、一等勲章以上の勲章の副章、二等勲章以下の勲章若しくは文化勲章、褒章又は記章を着用する場合には、男子にあつては紋付羽織袴若しくはフロックコート若しくはモーニングコート又はこれらに相当する制服に、女子にあつては白襟紋付若しくはローブモンタント又はこれらに相当する制服に着用し、四等以下の勲章、褒章又は記章を着用する場合には平服に着用することができる。

（一等勲章以上の勲章の着用方法）

第四条　燕尾服に一等勲章以上の勲章を着用する場合には、その正章は大綬をもつて上着の下に帯び、副章は上着の上に着用する。

2　一等勲章以上の勲章は、時宜により、副章のみを着用することができる。

（旭日二等勲章の着用方法）

第五条　旭日二等勲章は、時宜により、副章の着用を省くことができる。

（勲章等の併用方法）

第六条　左胸に着用する勲章、褒章及び記章をあわせて着用する場合には、勲章、褒章、記章の順序に着用する。

第七条　二種以上の勲章をあわせて着用する場合には、後に授与された勲章を、前に授与された勲章の上位に着用する。

第八条　二種以上の褒章又は二種以上の記章をあわせて着用する場合には、それぞれ授与された順序に着用する。

（外国の勲章等の着用方法）

第九条　外国の勲章等を着用する場合には、それぞれその国の規則による。

第十条　わが国の勲章等と外国の勲章等を有する者が外国の勲章を着用する場合には、わが国の勲章等をもあわせて着用するものとする。

第十一条　わが国の勲章等と外国の勲章等をあわせて着用する場合には、次の各号の順序に着用する。

一　わが国の勲章

二　外国の勲章

三　わが国の褒章又は記章

四　外国の記章（わが国の褒章に相当するものを含む。）

2　わが国の大綬をもつて帯びる勲章（以下「大綬章」という。）と外国の大綬章をあわせて着用する場合には、外国の大綬章の着用を省き、その副章を、わが国の副章の下位にならべて着用する。

3　外交の時宜により、必要がある場合における前二項の規定の適用については、同項中「わが国」とあるのは「外国」と、「外国」とあるのは「わが国」とする。

附　則

1　この規程は、昭和三十九年四月二十九日から適用する。

2　次に掲げる告示は、廃止する。

勲章記章佩用心得（明治二十二年賞勲局告示第一号）

昭和十年内閣告示第四号（勲四等以下の勲章、記章及び褒章佩用の件）

昭和十二年内閣告示第一号（文化勲章佩用の件）

昭和十五年内閣告示第九号（勲三等以上の勲章の佩用の件）

（略章略綬）

●略章略綬佩用心得

（明治二十二年二月十二日賞勲局告示第二号）

〔沿革〕大正八年五月二二日閣令第五号、一〇年四月二六日第五号、昭和六年八月一一日第二号、一一年五月一九日第二号改正

略章略綬佩用心得

一　各種勲章ノ略章（凡ソ径曲尺五六分若クハ其以下ノ大サニシテ勲章ノ形ト彩色トヲ備ヘタル略小勲章ヲ謂フ）ハ通常礼服著用ノ時或ル場合ニ於テ連鎖或ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩用スルヲ得外国勲章ノ略章モ亦同シ

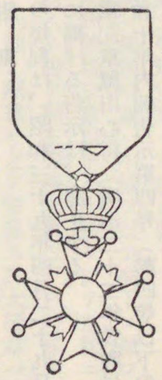
二　勲章又ハ褒章ノ略綬ハ通常礼服又ハ通常服著用ノ節左襟見返シノ鈕孔ニ掛ケ佩フヘシ婦人ニ在リテハ左肋ニ佩フヘシ但シ時宜ニ依リ男子ニ在リテハ紋付羽織袴婦人ニ在リテハ白襟紋服着用ノ節ニモ佩フルコトヲ得

三　略綬ハ別種二箇以上ノ勲章ヲ有スル者各其綬ト同色ナル絹ヲ以テ二箇若クハ数箇合併ノモノ（上位ノ勲章功三級又ハ勲三等以上ナルトキハ其ノ等級ノ略綬ニ応スル翼ヲ附ス）ヲ製シ之ヲ佩用スルヲ得又内外数種ノ勲章ヲ有スル者ハ内外数箇合併ノ略綬ヲ製シ之ヲ佩用スルコトヲ得二箇以上ノ褒章ヲ有スル者ニ付亦同シ但シ勲章ノ略綬ト合併スルコトナシ

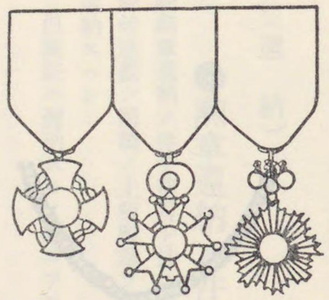
四　褒章ノ略綬ハ勲章ノ略綬ノ左ニ佩フヘシ

五　勲章ト褒章トヲ有スル者勲章ノ略綬ヲ佩ヒスシテ褒章ノ略綬ヲ佩フルコトナシ

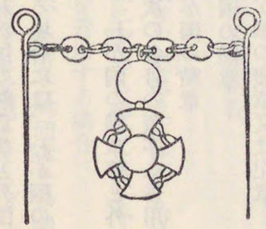
六　略綬ハ勲章、記章、褒章又ハ略章ト同時ニ佩フルコトナシ外国ノ勲章、記章、褒章又ハ略章ニ付亦同シ



略章ヲ小綬ニテ連佩スル図



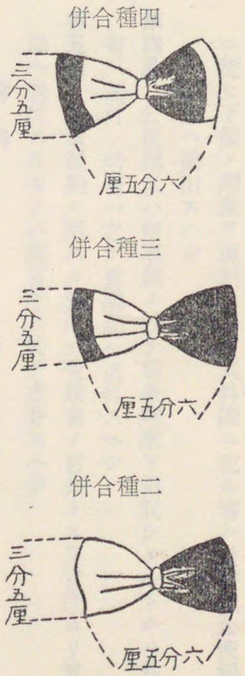
略章ヲ鏈鎖ニテ連佩スル図



略章ヲ鏈鎖ニテ佩ル図

二種以上ノ勲章ノ略綬ヲ合併シタル図

褒章ノ略綬ヲ合併シタル図



附　則（大正十年四月二十六日閣令第五号）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　本令施行前褒章ヲ授与セラレタル者其ノ略綬ヲ佩用セムトスルトキハ制式ニ従ヒ各自之ヲ調製スヘシ

附　則（昭和六年八月十一日閣令第二号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十一年五月十九日閣令第二号）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　従前ノ略綬ハ当分ノ内仍之ヲ佩用スルコトヲ得

大勲位菊花章頸飾略鎖略章佩用ノ件　勲章記章又ハ褒章ヲ有スル者制服著用ノ節略綬佩用ニ関スル件

●大勲位菊花章頸飾略鎖略章佩用ノ件

（明治三十五年四月十七日内閣告示第二号）

〔沿革〕昭和二二年五月三日総理庁告示第二号改正

1　大勲位菊花章頸飾ヲ有スル者ハ略鎖ヲ以テ略章ヲ喉下ニ佩フルコトヲ得

2　略鎖略章ヲ佩フルハ通常礼服著用ノ時トス

略鎖略章ノ図式左ノ如シ

径一寸五分

●勲章記章又ハ褒章ヲ有スル者制服著用ノ節略綬佩用ニ関スル件

（大正七年九月十七日内閣告示第四号）

〔沿革〕昭和一五年一一月二日内閣告示第一四号、二二年五月三日総理庁告示第二号改正

勲章記章又ハ褒章ヲ有スル者ハ大礼服ヲ除クノ外制服又ハ国民服礼装著用ノ節各自左ノ制式ノ略綬ヲ製シ之ヲ左肋ニ佩用スルコトヲ得

略綬二種以上ニ及フトキハ本章佩用ノ順序ニ従ヒ連結佩用スルモノトス

一　綬色　本綬ニ同シ

一　綬幅　本綬ニ同シ但シ無綬又ハ大綬ノ勲章ニ在リテハ勲三等ノ綬幅ニ同シ

一　綬長　曲尺三分

諸規程

（還　納）

●勲章還納ノ件

（明治二十二年三月二十二日勅令第三十八号）

朕勲章還納ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

勲等進叙シ同種ノ上級勲章ヲ受ケタル者ハ其下級ノ勲章ヲ賞勲局ヘ還納スヘシ

但勲記ハ還納スルノ限ニアラス

●勲章還納手続

（明治二十二年三月二十二日閣令第九号）

勲章還納手続ヲ定ムルコト左ノ如シ

勲章還納手続

第一条　同種上級ノ勲章ヲ授与セラレタル者ハ一週間以内ニ其下級ノ勲章ヲ賞勲局ヘ還納スヘシ

第二条　同種上級ノ勲章ヲ賞勲局ノ送達ニヨリ受領シタル者ハ直ニ其領票ト共ニ下級ノ勲章ヲ同局ヘ差出スヘシ

2　官庁ヲ経テ受領シタル者ハ其官庁ヘ差出シ官庁ハ之ヲ賞勲局ヘ送付スヘシ

勲章還納ノ件　勲章還納手続　勲章褫奪令

第三条　外国人ノ勲等進級シ同種上級勲章ヲ受ケタル者モ亦此手続ニ従ヒ下級ノ勲章ヲ還納スヘシ其外国ニ在ル者ハ最寄我公使館又ハ領事館ヘ差出スヘシ

第四条　公使館又ハ領事館ニ於テ前条勲章ヲ領収シタルトキハ外務省ヘ送付シ同省ハ之ヲ賞勲局ヘ送付スヘシ

第五条　勲章還納ニ関スル費用ハ受章者ノ自弁トス又官庁ヨリ賞勲局ヘ送付スルモノハ其官庁ニ於テ支弁スヘシ

附　則

一従前同種勲章ニ進叙シタル者ハ東京ハ二週間以内各地方ハ三十日以内ニ下級ノ勲章ヲ還納スヘシ我国在留ノ外国人亦同シ其外国ニ在ル者ハ手続第五条ニ依ルヘシ

但進級者既ニ死亡シタルトキハ本文ノ限ニアラス

（褫　奪）

●勲章褫奪令

（明治四十一年十二月二日勅令第二百九十一号）

〔沿革〕明治四二年五月一日勅令第一二〇号、昭和一二年二月一三日第一六号、二二年五月三日政令第四号改正

朕勲章褫奪令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（総理大臣副署）

勲章褫奪令

第一条　勲章ヲ有スル者死刑、懲役又ハ無期若ハ三年以上ノ禁錮ニ

処セラレタルトキハ其ノ勲等又ハ年金ハ之ヲ褫奪セラレタルモノトシ外国勲章ハ其ノ佩用ヲ禁止セラレタルモノトス但シ第二条第一項第一号ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

2　前項ノ場合ニ於テハ勲章、勲記、年金証書又ハ外国勲章佩用免許証ハ之ヲ没取ス前級ノ勲記ニ付亦同シ

第二条　勲章ヲ有スル者左ノ各号ノ一ニ該当スルトキハ情状ニ依リ其ノ勲等又ハ年金ヲ褫奪シ外国勲章ハ其ノ佩用ヲ禁止ス

一　刑ノ執行ヲ猶予セラレタルトキ

二　三年未満ノ禁錮ニ処セラレタルトキ

三　懲戒ノ裁判又ハ処分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

四　素行修ラス帯勲者タルノ面目ヲ汚シタルトキ

2　前項ノ場合ニ於テハ前条第二項ノ規定ヲ適用ス

第三条　勲章ヲ有スル者法令ニ因リ拘禁セラレ又ハ労役場ニ留置セラレタルトキハ其ノ期間勲章ヲ佩用シ又ハ之ニ属スル礼遇、特権ヲ享クルコトヲ得ス外国勲章ハ其ノ佩用ヲ停止ス保釈、責付、仮出獄又ハ刑ノ執行猶予ノ期間亦同シ

第四条　勲章年金ヲ有スル者勾留セラレ又ハ禁錮以上ノ刑ニ因リ拘禁セラレタルトキハ其ノ期間年金ヲ受クルコトヲ得ス保釈、責付、仮出獄又ハ刑ノ執行猶予ノ期間亦同シ但シ処刑セラルルコトナクシテ釈放若ハ放免セラレ又ハ刑ノ執行猶予ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶予ノ期間ヲ経過シ且其ノ期間勲章ヲ褫奪セラレサル者ハ勾留ノ日ニ遡リテ年金ヲ受ク

第五条　三年未満ノ禁錮ニ処セラレ刑ノ執行ヲ了リタルトキ又ハ懲戒ノ裁判若ハ処分ニ因リ免官若ハ免職セラレタルトキハ勲章褫奪ニ関スル決定アル迄勲章ヲ佩用シ及之ニ属スル礼遇、特権又ハ年金ヲ享受スルコトヲ得ス外国勲章ハ其ノ佩用ヲ停止ス但シ勲章褫奪ノ処分ニ及ハサルトキハ停止ノ始ニ遡リテ年金ヲ受ク

第六条　本令ハ文化勲章、記章、褒章ノ褫奪又ハ其ノ佩用停止及外国記章ノ佩用禁止又ハ停止ニ之ヲ準用ス

附　則

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　明治十六年太政官布告第二十二号及明治三十二年勅令第三百九号ハ之ヲ廃止ス

3　本令ハ本令施行前ヨリ引続キ法令ニ因リ拘禁セラレタル者及保釈、責付、仮出獄又ハ刑ノ執行猶予中ノ者ニ之ヲ準用ス

附　則（明治四十二年五月一日勅令第百二十号抄）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十二年二月十三日勅令第十六号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二十二年五月三日政令第四号抄）

1　この政令は、公布の日から、これを施行する。

勲章褫奪令施行細則

（明治四十一年十二月二日閣令第二号）

〔沿革〕大正二年二月一三日閣令第一号、八年八月四日第九号、昭和二二年五月三日総理庁令第一号改正

勲章褫奪令施行細則左ノ通定ム

勲章褫奪令施行細則

第一条　勲章褫奪令第二条第一項第一号乃至第三号ノ場合ニ於テハ確定裁判ヲ為シタル官庁ノ長官若ハ検察官又ハ懲戒処分ヲ為シタル官庁若ハ行政庁ヨリ判決ノ謄本若ハ懲戒事由明細書ヲ添ヘ第一号書式ニ依リ賞勲局総裁ニ申牒スヘシ

2　前項判決ノ謄本ハ証拠説明ノ部分ヲ省略シタル判決ノ抄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

3　第一項ノ申牒ヲ為シタル後褫奪又ハ佩用禁止ニ関スル決定未済ノ者ニ対シ刑ノ言渡ノ効力ヲ失ハシムル特赦又ハ特旨ニ依ル懲戒ノ免除アリタルトキハ其ノ旨賞勲局総裁ニ申牒スヘシ

4　第二条第一項第四号ノ場合ニ於テハ所轄長官又ハ地方長官ヨリ素行明細書ヲ添ヘ第一号書式ニ依リ賞勲局総裁ニ申牒スヘシ

第二条　勲章褫奪令第四条ニ掲クル事由生シタルトキハ当該官庁又ハ行政庁ハ第二号書式ニ依リ賞勲局総裁ニ申牒スヘシ但シ勾留後ノ保釈、責付、及仮出獄ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三条　勲章褫奪令第一条第二項ノ処分ハ賞勲局総裁ノ嘱託アリタルモノト看做シ当該裁判所ノ長官若ハ検査官之ヲ行ヒ同第二条第二項ノ処分ハ賞勲局総裁当該裁判所ノ長官若ハ検察官又ハ申牒ヲ為シタル官庁若ハ行政庁ニ嘱託シテ之ヲ行フ

2　勲章褫奪令第一条第二項ノ処分ヲ為シタルトキハ第三号書式ニ依リ賞勲局総裁ニ申牒スヘシ

第四条　勲章褫奪令第二条第一項第二号及第三号ノ場合ニ於テ勲章褫奪ノ処分ニ及ハサルモノト決定シタルトキハ賞勲局総裁ハ当該官庁又ハ行政庁ヲシテ其ノ旨ヲ本人ニ通知セシムヘシ

第五条　本令ハ記章、褒章ノ没取及外国勲章、記章ノ佩用免許証ノ没取ニ之ヲ準用ス

附　則

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　明治十九年閣令第十九号ハ之ヲ廃止ス但シ本令施行前已ニ手続中ノモノニ付テハ仍従前ノ例ニ依ル

附　則（大正八年八月四日閣令第九号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二十二年五月三日総理庁令第一号）

この命令は、公布の日から、これを施行する。

第一号書式

申牒書

位勲功氏名

一　裁判確定
年　月　日

調査事項 ＼ 勲章、年金、記章又ハ褒章ノ種類						
勲記、年金証書、記章証状、褒章証状、外国勲章						

佩用免許証又ハ外国記章佩用免許証ノ番号	授賜又ハ佩用免許ノ年月日	授賜又ハ佩用免許当時ノ官職	授賜又ハ佩用免許当時ノ所属庁又ハ部隊	授賜又ハ佩用免許当時ノ氏名	明治三十七八年戦役ニ関スルモノハ発表官報年月日及頁数

右勲章褫奪令施行細則第一条第一項(第四項)ノ規定ニ依リ及申牒候也

年　月　日　　官職氏名印

賞勲局総裁

備考

勲章、年金、記章又ハ褒章ノ種類ノ項ニハ左ノ順序ニ依リ記載スヘシ

一　勲章
二　勲章年金
三　記章
四　褒章
五　外国勲章
六　外国記章

勲記、年金証書、記章証状、褒章証状、外国勲章佩用免許証又ハ外国記章佩用免許証ノ番号ヲ記載シタルトキハ他ノ調査事項ヲ記載スルコトヲ要セス

第二号書式

申牒書　　本人ノ氏名

一勾留、拘禁、釈放又ハ放免ノ日
一刑ノ執行猶予ノ言渡アリタルトキハ裁判確定ノ日及執行猶予ノ期間
一刑ノ執行猶予ヲ受ケ勲章ヲ褫奪セラレサル者執行猶予ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶予ノ期間ヲ経過シタルトキハ其ノ旨

調査事項＼年金ノ種類	年金証書ノ番号	年金額	年金賜与ノ年月日	賜与当時ノ官職	賜与当時ノ所属庁又ハ部隊	明治三十七八年戦役ニ関スルモノハ発表官報年月日及頁数

右勲章褫奪令施行細則第二条ノ規定ニ依リ及申牒候也

年　月　日　　官職氏名印

賞勲局総裁

備考

年金証書ノ番号ヲ記載スルコト能ハサルトキハ勲記ノ番号ヲ記載スヘシ

年金証書ノ番号又ハ勲記ノ番号ヲ記載シタルトキハ他ノ調査事項ヲ記載スルコトヲ要セス

第三号書式

申牒書　　位勲功氏名

一罪　名
一刑　名
一刑　期
一裁判確定
年月日

調査事項＼勲章、年金、記章又ハ褒章ノ種類	勲記、年金証書、記章証状、褒章証状、外国勲章佩用免許証又ハ外国記章佩用免許証ノ番号	授賜又ハ佩用免許ノ年月日	授賜又ハ佩用免許当時ノ官職	授賜又ハ佩用免許当時ノ所属庁又ハ部隊	授賜又ハ佩用免許当時ノ氏名

明治三十七八年戦役ニ関スルモノハ発表官報年月日及頁数

右勲章褫奪令施行細則第三条第二項ノ規定ニ依リ及申牒候也

年　月　日　　官職氏名印

賞勲局総裁

備考

勲章、年金、記章又ハ褒章ノ種類ノ項ニハ左ノ順序ニ依リ記載スヘシ

一　勲章
二　勲章年金
三　記章
四　褒章
五　外国勲章
六　外国記章

勲記、年金証書、記章証状、褒章証状、外国勲章佩用免許証又ハ外国記章佩用免許証ノ番号ヲ記載シタルトキハ他ノ調査事項ヲ記載スルコトヲ要セス

（返上）

●位、勲章等ノ返上ノ請願ニ関スル件

（昭和二十年十二月七日 勅令第六百九十九号）

朕枢密顧問ノ諮詢ヲ経テ位、勲章等ノ返上ノ請願ニ関スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

有位者又ハ勲章、記章若ハ褒章ヲ有スル者特別ノ事情アル場合ニ於テハ其ノ位又ハ勲章、記章若ハ褒章ノ返上ヲ請願スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●位、勲章等ノ返上ノ請願ニ関スル件施行ノ件

（昭和二十年十二月十四日 閣令第六十八号）

昭和二十年勅令第六百九十九号位、勲章等ノ返上ノ請願ニ関スル件施行ノ件左ノ通定ム

第一条　有位者又ハ勲章、記章若ハ褒章ヲ有スル者ニシテ昭和二十年勅令第六百九十九号ニ基キ位又ハ勲章、記章若ハ褒章ノ返上ヲ請願セントスルモノ（以下請願者ト称ス）ハ別紙様式ニ依ル請願書ニ理由ヲ具シ位記、勲記、功記及年金証書其ノ他ノ証状並ニ章牌（以下賞賜物件ト称ス）ヲ添ヘ内閣総理大臣ニ提出スベシ

2　請願者在官又ハ在職中ノ者ナルトキハ前項ノ手続ハ本属長官ヲ経テ之ヲ為スベシ

第二条　位、勲章、記章又ハ褒章ノ中二以上ヲ併セ有スル者其ノ二以上ニ付返上ノ請願ヲ為サントスルトキハ同時ニ之ヲ為スベシ

第三条　請願者有爵者若ハ爵ヲ襲グコトヲ得ベキ相続人又ハ宮内職員ナルトキハ第一条ノ規定ニ拘ラズ位ノ返上ノ請願書及位記ハ之ヲ宮内大臣ニ提出スベシ

第四条　請願者請願ヲ採納セラレタルトキハ本人ニ対シ其ノ旨ヲ指令シ併セテ官報ニ之ヲ告示ス

2　請願者第一条第二項ニ該当スル者ナルトキハ前項ノ指令ハ本属長官ヲ通ジテ之ヲ行フ

第五条　賞賜物件ノ返納ニ関スル事務ハ必要ニ応ジ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトアルベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別紙（請願書様式）

位、勲章、記章又ハ褒章ノ返上願

本　籍
現住所
官位勲功爵　　氏　　名
生年月日

一　返上ノ理由

一　返上セントスル位、勲章、記章又ハ褒章ノ別及位ニ在リテハ位階、勲章ニ在リテハ其ノ種類及勲等功級、記章又ハ褒章ニ在リテハ其ノ種類

一　位、勲章、記章又ハ褒章ヲ賜リタル当時ノ職業及年月日

右昭和二十年勅令第六百九十九号ニ依リ位（勲章、記章又ハ褒章）ノ返上致度候ニ付位記（勲記、功記、年金証書其ノ他ノ証状及章牌）相添ヘ此段及請願候

年　月　日　　氏　　名印

内閣総理大臣　宛

（請願者第三条ノ規定ニ該当スル者ナルトキハ宮内大臣宛トス）

（その他）

●叙勲者等族籍氏名変更届出方

（大正三年十二月二十九日 内閣告示第六号）

〔沿革〕昭和一二年四月一三日内閣告示第三号改正

1　勲等、功級ニ叙セラレ又ハ記章、褒章ヲ授与セラレタル者族籍、氏名ヲ変更シタルトキハ其ノ旨速ニ賞勲局ニ届出ヘシ死亡後未タ届出サル者亦同シ

2　前項ノ者死亡シタルトキハ家督相続人、戸主又ハ親族ヨリ届出ヘシ死亡後未タ届出サル者亦同シ

3　届書ニハ勲等、功級ニ叙セラレ又ハ記章、褒章ヲ授与セラレタル者ノ氏名、勲等、功級、勲章、記章、褒章ノ名称、勲記功記年金証証状章記ノ番号ヲ明記スヘシ

4　前三項ノ規定ハ文化勲章ヲ授与セラレタル者ニ之ヲ準用ス

閣議決定事項等

●官吏任用叙級令施行に伴ふ官吏に対する叙位及び叙勲並びに貴族院及び衆議院の議長、副議長、議員又は市町村長及び市町村助役に対する叙勲の取扱に関する件

（昭和二十一年五月三日閣議決定　昭和二十一年五月三日裁可）

一、官吏に対する現行の叙位並びに叙勲の制度は一時停止すること。

二、貴族院及び衆議院の議長、副議長、議員並びに市町村長及び市町村助役に対する現行の叙勲制度は一時停止すること。

三、前二項に拘わらず本年三月三十一日迄に於て文武官叙位進階内則に依り初叙又は特旨叙位（位階追陞を含む）の資格の発生した者並びに叙勲内則第六条に依り初叙進級の資格の発生した者に対しては特に従前の例に依り叙位並びに叙勲の取扱を為し得ること。

四、在官在職中死歿した者に対する叙位及び叙勲に付ては民間功労者に対する死亡の際に於ける特旨叙位又は叙勲、勲章加授の例に準じ其の際叙位並びに叙勲の取扱を為し得ること。

五、第一項及第二項実施の為叙位並びに叙勲せられなかつた者に対しては新制度実現の際に於て新制度を遡及適用するなどの方法に依り不利益を蒙らない様考慮すること。

理　由

官吏に対する叙位、叙勲の取扱は文武官叙位進階内則又は叙勲内則に依り官等或は在職年数に拠り、叙位、叙勲せられたるところ今般官吏任用叙級令の施行に伴い官等は廃止せられたるを以て之れが制度を改正するの必要を生じたるも現下の状勢に鑑み新憲法制定せられ栄典の制度の確定を見る迄官吏に対する叙位、叙勲の取扱を一時停止するの要あるに依る。

貴族院及び衆議院の議長、副議長、議員又は市町村長及市町村助役に対する叙勲に付ては叙勲内則中官吏の定例叙勲に関する規定を準用せらるる関係もあり官吏と同様の取扱をなすの要あり。

●生存者に対する叙勲の取扱に関する件

（昭和二十八年九月十八日閣議決定　昭和二十八年九月十八日裁可）

生存者に対する叙勲は、昭和二十一年以来原則としてその取扱を停止し栄典制度を再検討した後、実施する方針であつたが、最近の状況に鑑み緊急を要するものについては、一応現行勲章を授与することとする。

●生存者に対する叙勲に関する件

（昭和二十八年十月十六日決裁）

九月十八日閣議決定にかかる「生存者に対する叙勲の取扱に関する件」中いわゆる緊急を要するものとして、おおむね左記に該当する者の主として講和条約発効以後における功労について、叙勲の詮議をすることといたしたく高裁を仰ぐ。

記

一、風水害又は震火災等の非常災害に際し、現場にあつて、左の各号に掲げるような行為をなし、災禍の防止、救援又は復旧に努め、特別に功労のある者。

(一) 堤防の決潰、橋梁の流失、家屋の倒潰等の防止
(二) 交通機関又は通信機関の保守
(三) 消火又は延焼防止
(四) 防　疫
(五) 罹災者若くは傷病者の救護又は資材食糧の補給
(六) 道路、堤防等の修理又は復旧

生存者に対する叙勲の取扱に関する件　生存者に対する叙勲に関する件　生存者叙勲の開始について

二、自己の危難を冒して、左の各号に掲げるような行為をなし、特別に功労のある者。

(一) 犯罪容疑者の逮捕又は逮捕への協力
(二) 工場鉱山等の災害の防止

三、疾病又は負傷により重態で再起の見込なく、生前の功労により叙勲の必要ある者。

四、その他抜群の功労があつて、緊急に叙勲することを必要とする者。

●生存者叙勲の開始について

（昭和三十八年七月十二日閣議決定　昭和三十八年七月十二日裁可）

生存者叙勲の開始について

一、昭和二十一年五月三日の閣議決定により停止した生存者に対する叙勲を開始する。

二、叙勲は、国家又は公共に対し功労のある者を広く対象とするものとし、その基準は、別に定める。

備考　本件に要する経費及び人員並びに機構の改正については、別途予算及び法制的措置を講ずるものとする。

理　由

生存者叙勲は、昭和二十一年五月三日及び昭和二十八年九月十八日の閣議決定により、緊急を要するものを除いて、一時停止していたが、栄典制度に対する国民の期待その他の事情を考慮し、今回現行栄典制度による生存者叙勲を開始するのが相当であると認めたからである。

●勲章、記章、褒章等の授与及び伝達式例

（昭和三十八年七月十二日閣議決定　昭和三十八年七月十二日裁可）

第一条　勲章、記章、褒章等は、皇族又は外国人に対する勲章を除き、本例の定めるところにより、授与し、又は伝達するものとする。

第二条　勲一等以上の勲章は、宮中において、その授与式を行ない、天皇が親授する。

第三条　勲二等の勲章は、内閣総理大臣が受章者に伝達する。

第四条　勲三等以下の勲章、記章、褒章等は、内閣総理大臣の命を受け、内閣総理大臣官房賞勲部長が所管大臣に伝達し、所管大臣が適宜受章者に伝達する。

第五条　文化勲章は、宮中において、天皇臨席のもとに内閣総理大臣が受章者に伝達する。

第六条　特別の理由により、第二条、第三条又は前条の規定によりがたい場合においては、内閣総理大臣の命を受け、内閣総理大臣官房賞勲部長が、当該勲章を所管大臣に伝達し、所管大臣が適宜これを受章者に伝達するものとする。

理　由

生存者叙勲の開始に伴い、新たに勲章、記章、褒章等の授与及び伝達式例を定める必要があるからである。

●戦没者の叙位及び叙勲について

（昭和三十九年一月七日閣議決定　昭和三十九年一月七日裁可）

今次の戦争に関する勤務に従事しこれに関連して死没した軍人軍属等に対し、次の要領により、叙位及び叙勲を行なうものとする。

一　叙位及び叙勲すべき者の範囲

叙位及び叙勲すべき者の範囲は、今次の戦争に関する勤務に従事しこれに関連して死没した軍人軍属及びこれに準ずると認められる者（以下「戦没者」という。）とする。

二　位記並びに勲記及び勲章

㈠　位記

叙位発令の内部手続を完了した旨の通知を行なつた者に対しては、当該通知に係る位記を授与する。

その他の戦没者であつて、死没の時に叙位の資格を有すると認められるものに対しては、当時の叙位の基準により位記を授与する。

㈡　勲記及び勲章

勲章及び御沙汰書を授与したが、勲記を授与しなかつた者に対しては、当該御沙汰書所定の勲記を授与する。

叙勲発令の内部手続を完了した旨の通知を行なつた者に対しては、当該通知に係る勲記及び勲章を授与する。

その他の戦没者に対しては、当時の叙勲の基準により勲記及び勲章を授与する。

三　位記又は勲記若しくは勲章を伝達すべき遺族の範囲及び順位

位記又は勲記若しくは勲章を伝達すべき遺族の範囲及び順位の基準は、戦傷病者戦没者遺族等援護法の弔慰金の支給に係る遺族の範囲及び順位の例によるものとする。ただし、すでに勲章の伝達を受けた遺族が生存しているときは、その者を第一順位とする等、必要な場合には、例外を設けるものとする。

「備考」

戦没者の叙位及び叙勲に関する事務は、都道府県及び市町村に委託して行なうものとする。

理　由

今次の戦争に関する勤務に従事しこれに関連して死没した軍人軍属に対する叙勲の状況を顧みるに、約三十三万八千人に対しては、勲章及び御沙汰書を授与したが、勲記を授与せず、約六十八万六千人に対しては、叙勲発令の内部手続を完了した旨の通知を行なつたが、勲記及び勲章を授与しなかつたのであつて、いずれの場合にも叙勲の正式手続を完了していないのである。昭和三十八年七月十二日の閣議決定により生存者叙勲を開始することとなつた今日において、この事態をこのまま放置することは、国の命ずるところに従い生命を捧げた戦没者の霊に対して、非礼であるのみならず、国の道義にもとることとなることにかんがみ、これらの者に対して叙勲を行なうこととするとともに、これらの者とその功績において差異のないその他の戦没者約百万人に対しても叙勲を行なうことが適切であると認められる。

なお、右の戦没者のうち、死没の時に叙位の資格を有すると認められるものに対しては、この際、叙位を行なうことが適当であると認められる。

参考規程等

●民事訴訟法(抄)

(明治二十三年四月二十一日法律第二十九号)

最終改正　昭和三八年七月九日法律第一二六号

第五百七十条　左に掲クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

(中略)

第八　勲章及ヒ名誉ノ証票

(以下略)

●軽犯罪法(抄)

(昭和二十三年五月一日法律第三十九号)

第一条　左の各号の一に該当する者は、これを拘留又は科料に処する。

(中略)

十五　官公職、位階勲等、学位その他法令により定められた称号若しくは外国におけるこれらに準ずるものを詐称し、又は資格がないのにかかわらず、法令により定められた制服若しくは勲章、記章その他の標章若しくはこれらに似せて作つた物を用いた者

(以下略)

第二条　前条の罪を犯した者に対しては、情状に因り、その刑を免除し、又は拘留及び科料を併科することができる。

第三条　第一条の罪を教唆し、又は幇助した者は、正犯に準ずる。

第四条　この法律の適用にあたつては、国民の権利を不当に侵害しないように留意し、その本来の目的を逸脱して他の目的のためにこれを濫用するようなことがあつてはならない。

附　則

1　この法律は、昭和二十三年五月二日から、これを施行する。

●商標法(抄)

(昭和三十四年四月十三日法律第百二十七号施行昭三五・四・一)

最終改正　昭和三七年九月一五日法律第一六一号

(商標登録を受けることができない商標)

第四条　次に掲げる商標については、前条の規定にかかわらず、商標登録を受けることができない。

一　国旗、菊花紋章、勲章、褒章又は外国の国旗と同一又は類似の商標

(以下略)

●文化功労者年金法

(昭和二十六年四月三日法律第百二十五号)

〔沿革〕昭和三九年三月二七日法律第一〇号改正

文化功労者年金法をここに公布する。

(総理大臣署名)

文化功労者年金法

(この法律の目的)

第一条　この法律は、文化の向上発達に関し特に功績顕著な者(以下「文化功労者」という。)に年金を支給し、これを顕彰することを目的とする。

(文化功労者選考審査会)

第二条　文部省に文化功労者選考審査会を置く。

2　文化功労者選考審査会は、文部大臣の諮問に応じ、文化功労者の候補者の選考に関する事項を調査審議する。

(委員)

第三条　文化功労者選考審査会は、十人の委員をもつて組織する。

2　委員は、文化に関し高い識見を有する者のうちから、文部大臣が任命する。

(委員の任期)

第四条　委員の任期は、一年とする。但し、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2　委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第五条　文化功労者選考審査会に会長、副会長各一人を置き、委員の互選によつて定める。

2　会長は、文化功労者選考審査会の会務を総理する。

3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠員のときはその職務を行う。

(組織及び運営の細目)

第六条　前四条に定めるもののほか、文化功労者選考審査会の組織及び運営の細目については、政令で定める。

(文化功労者の決定)

第七条　文化功労者は、文化功労者選考審査会が選考した者のうちから、文部大臣が決定する。

(年金)

第八条　文化功労者には、終身、年金百万円を支給する。

2　前項の規定による年金の支給方法については、政令で定める。

附　則

1　この法律は、公布の日から施行する。

2　文部省設置法(昭和二十四年法律第百四十六号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附　則(昭和三十九年三月二十七日法律第十号)

この法律は、昭和三十九年四月一日から施行する。

●外国勲章佩用願規則（明治十八年十二月二十一日 太政官布告第三十五号）

〔沿革〕明治三一年一二月三日勅令第三三九号改正

明治十一年六月第十五号布告外国勲章佩用免許願手続左ノ通改正ス

外国勲章佩用願規則

第一条 外国ノ勲章ヲ受領シ之ヲ佩用セントスル者ハ賞勲局総裁ヘ願出免許状ヲ受クヘシ

第二条 佩用願書ニハ勲章勲記其他関係書類ヲ添ヘ賞勲局総裁ヘ差出スヘシ

第三条 外国ノ勲章ヲ佩用スル者死亡シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ遺族又ハ親戚ヨリ賞勲局ヘ届出ヘシ

第四条 外国ノ記章（従軍記章人命救助記章博覧会記章ノ類）ヲ受領シ之ヲ佩用セントスル者ハ総テ此規則ニ準拠スヘシ

右奉 勅旨布告候事

●金鵄勲章ノ等級製式佩用式（明治二十三年二月十一日 勅令第十一号）

〔沿革〕明治二八年八月一七日勅令第一二〇号、大正一〇年四月二五日第一四九号、昭和一一年五月一八日第六六号、一二年一〇月五日第五七号、一七年九月二五日第六五六号改正

〔廃止〕昭和二二年五月三日政令第四号

朕金鵄勲章ノ等級製式佩用式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（総理大臣副署）

一 金鵄勲章

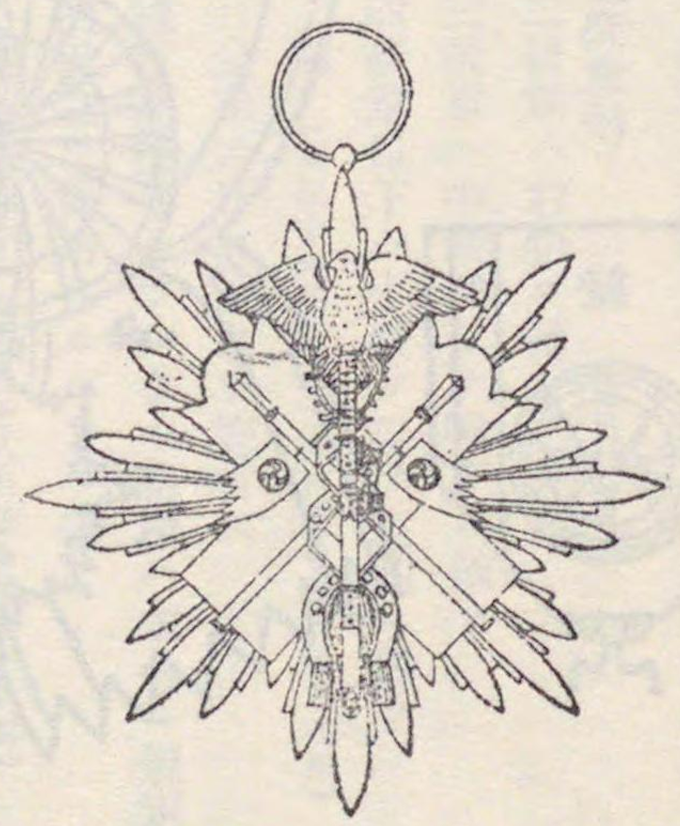
功一級ヨリ功七級ニ至ル武功抜群ナル者ニ賜フ

金鵄勲章製式

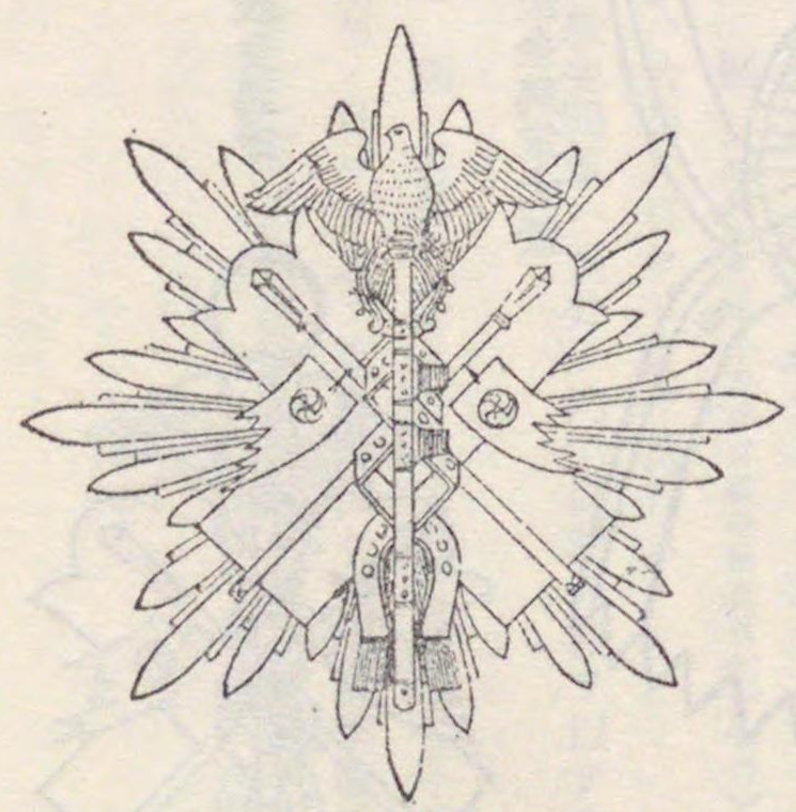
	章	綬
功一級章	金径二寸五分 鵄金地剱緑紫白淡藍色仏綵篏楯濃藍色仏綵篏矛銀地黄紅色仏綵篏光線紅色仏綵篏	幅二寸六分 織地緑雙線白
同副章	金径三寸 鵄金地剱緑紫白淡藍色仏綵篏楯濃藍色仏綵篏矛銀地黄紅色仏綵篏光線紅黄色仏綵篏	
功二級章	金径三寸 鵄金地剱緑紫白淡藍色仏綵篏楯濃藍色仏綵篏矛銀地黄紅色仏綵篏光線紅黄色仏綵篏	
功三級章	金径一寸八分 鵄金地剱緑紫白淡藍色仏綵篏楯濃藍色仏綵篏矛銀地黄紅色仏綵篏光線紅色仏綵篏	幅一寸二分 織地緑雙線白
功四級章	金径一寸五分 鵄金地剱緑紫白淡藍色仏綵篏楯濃藍色仏綵篏矛銀地黄紅色仏綵篏光線紅色仏綵篏	幅一寸二分 綵花ヲ附ス織地緑雙線白
功五級章	銀径一寸五分 鵄金地剱緑紫白淡藍色仏綵篏楯濃藍色仏綵篏矛銀地黄紅色仏綵篏光線紅色仏綵篏	幅一寸二分 織地緑雙線白
功六級章	金長径一寸七分 鵄剱楯矛金地	幅一寸二分 織地緑雙線白
功七級章	銀長径一寸七分 鵄金地剱楯矛銀地	幅一寸二分 織地緑雙線白

金鵄勲章ノ図

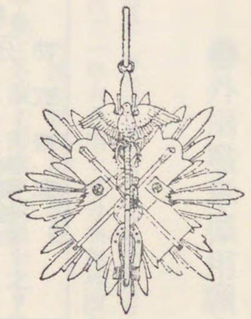
功一級金鵄章



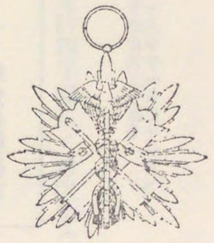
功一級金鵄副章
功二級金鵄章



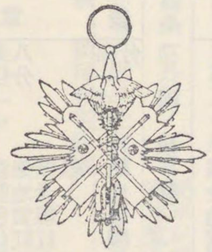
金鵄勲章ノ等級製式佩用式



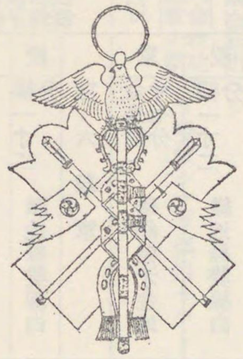
功三級金鵄章



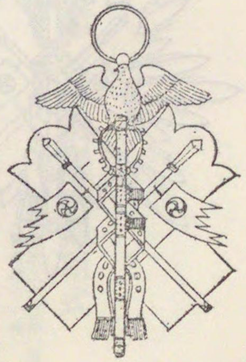
功四級金鵄章



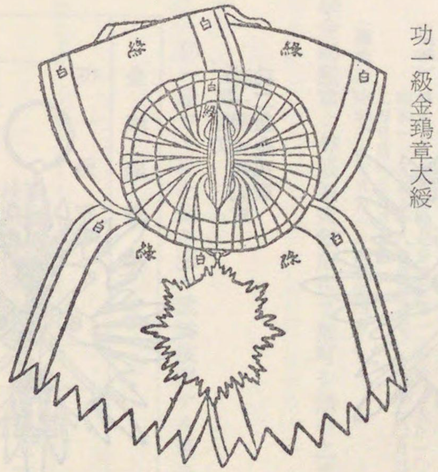
功五級金鵄章



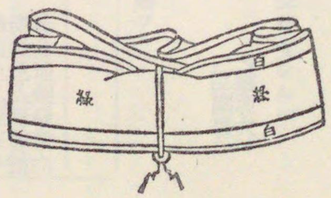
功六級金鵄章



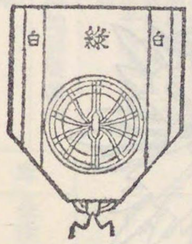
功七級金鵄章



功一級金鵄章大綬

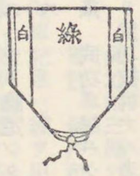


功三級金鵄章綬

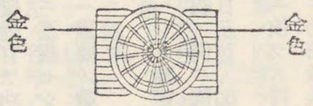


功四級金鵄章綬

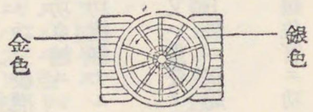
金鵄勲章略綬（地及縁緑色、線白色直径三分五厘功三級以上ノモノニハ図ノ如キ翼ヲ附ス）



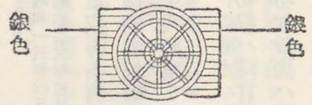
功五級以下金鵄章綬



功一級



功二級



功三級

功四級

功五級

功六級

功七級

金鵄勲章ノ等級製式佩用式

金鵄勲章佩用式

一　功一級章ハ大綬ヲ以テ左肩ヨリ右脇ニ垂レ其ノ副章ヲ左肋ニ佩フ

二　功二級章ハ右肋ニ佩フ

三　功三級章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

四　功四級章以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

附　則（大正十年四月二十五日勅令第百四十九号）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　本令施行前授与セラレタル略綬ハ本令ニ規定スルモノト異ルモ当分ノ内仍之ヲ佩用スルコトヲ得

附　則（昭和十一年五月十八日勅令第六十六号）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　従前ノ略綬ハ当分ノ内仍之ヲ佩用スルコトヲ得

附　則（昭和十二年十月五日勅令第五百七十七号）

1　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2　功四級金鵄章ハ当分ノ内仍従前ノ綬ヲ以テ之ヲ佩用スルコトヲ得

附　則（昭和十七年九月二十五日勅令第六百五十六号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ金鵄勲章製式及図ノ改正規定ハ昭和十六年十二月八日以後ノ日附ニ係ル行賞ニ付之ヲ適用ス

●金鵄勲章叙賜条例

（明治二十七年十一月二十八日勅令第百九十三号）

〔沿革〕昭和一三年四月二〇日勅令第二七〇号、一七年九月二五日第六五五号改正
〔廃止〕昭和二一年五月三日政令第四号

朕金鵄勲章叙賜条例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム　（総理大臣副署）

金鵄勲章叙賜条例

第一条　金鵄勲章ヲ武功抜群ナル者ニ叙賜スルハ本条例ノ定ムル所ニ依ル

第二条　初叙ハ将官ハ功三級佐官ハ功四級尉官ハ功五級准士官及下士官ハ功六級兵ハ功七級トシ武功ヲ累ヌルニ従ヒ逐次進級セシメ佐官ハ功二級尉官ハ功三級准士官及下士官ハ功四級兵ハ功五級ニ至ルコトヲ得但シ将官ヲ功一級佐官ヲ功二級尉官ヲ功三級准士官及下士官ヲ功四級兵ヲ功五級ニ進級セシムルハ武功卓越ニシテ優賞スヘシト論定シタル場合又ハ重要ノ職ニ当リ武功抜群ナル場合トス

第三条　武功卓越ニシテ優賞スヘシト論定シタル者又ハ重要ノ職ニ当リ武功抜群ナル者ハ前条初叙ノ例ニ依ラス一等上級ニ叙賜スルコトアルヘシ

第四条　特旨ニ依リ前二条ノ例ニ依ラス将官ニ功一級佐官ニ功二級尉官ニ功三級准士官及下士官ニ功四級兵ニ功五級ヲ叙賜スルコトアルヘシ

第五条　陸軍見習士官陸軍少尉候補者海軍少尉候補生及海軍見習尉官ハ尉官ニ準シテ擬叙ス

第六条　軍属ハ軍人ニ準シテ叙賜ス

第七条　金鵄勲章ヲ叙賜セラレタル者抜群ノ武功ヲ累ネタル場合ニ於テ其ノ功級ヲ進叙セサルトキハ現ニ受有スル功級ノ金鵄勲章ヲ加授ス

第八条　戦役ノ景況ニ依リ特ニ軍司令官又ハ艦隊司令長官ニ金鵄勲章五級以下ヲ其ノ部下ニ授与スルノ権ヲ仮スコトアルヘシ

第九条　金鵄勲章叙賜規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附　則　（昭和十三年四月二十日勅令第二百七十号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四条及第五条ノ改正規定ハ昭和十二年七月八日以後ノ金鵄勲章ノ叙賜ニ付之ヲ適用ス

附　則　（昭和十七年九月二十五日勅令第六百五十五号）

本令ハ昭和十六年十二月八日以後ノ日附ニ係ル行賞ニ付之ヲ適用ス

●支那事変従軍記章令

（昭和十四年七月二十七日勅令第四百九十六号）

〔沿革〕昭和一九年六月二〇日勅令第四一八号改正
〔廃止〕昭和二一年三月二九日勅令第一七七号

朕枢密顧問ノ諮詢ヲ経テ支那事変従軍記章令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム　（総理大臣副署）

支那事変従軍記章令

第一条　支那事変記念ノ表章トシテ特ニ従軍記章ヲ設ク

第二条　従軍記章ノ図式左ノ如シ

章　青銅円形径三糎トシ表面ニ菊御紋、八咫烏、軍旗、軍艦旗、瑞雲及光ノ図ヲ鋳出シ裏面ニ山、雲及波ノ図ヲ鋳出シ支那事変ノ四字ヲ識ス

飾版　青銅トシ表面ニ従軍記章ノ四字ヲ識ス

鈕　青銅トシ表面及裏面ニ日蔭蔓ノ図ヲ鋳出ス

綬　織地幅三糎六粍トシ中央赤色、其ノ左右内側ヨリ各紅色、香色、納戸色、濃桔梗色トス

2　従軍記章ハ綬ヲ用ヒテ左肋ニ佩ブ

第三条　従軍記章ハ左ノ各号ノ一ニ該当スル者ニ之ヲ授与ス　但シ昭和十五年四月二十九日以後左ノ各号ノ一ニ該当スルニ至リタル者ニシテ大東亜戦争従軍記章ヲ授与セラルルモノニハ之ヲ授与セズ

一　事変地ニ在リテ軍務ニ従事シ又ハ軍事ニ関スル特別ノ任務ヲ受ケテ事変地ニ往復シタル陸海軍軍人軍属及文官

二　事変地ニ臨マザルモ動員部隊若ハ事変ノ為臨時編成シタル部隊ニ編入セラレ又ハ事変ニ関スル軍務ニ従事シタル陸海軍軍人軍属

三　事変ニ関スル軍務ニ従事シタル陸海軍官用船舶又ハ病院船ノ乗組船員

四　陸海軍官憲ノ監督ヲ受ケ事変ニ関スル傷病者ノ救護ニ従事シタル者

2　前項各号ノ一ニ該当スル者ト雖モ傭役人夫ノ類又ハ之ニ準ズベキ下級船員等ニ在リテハ特殊ノ軍務ニ服シ且功績アル者ニ非ザレバ従軍記章ヲ授与セズ

第四条　事変ニ関スル軍務ヲ幇助シ特ニ功績アル者又ハ許可ヲ得テ従軍シタル者ニハ特ニ従軍記章ヲ授与スルコトアルベシ

第五条　禁錮以上ノ刑ニ処セラレタル者ニハ従軍記章ヲ授与セズ但シ刑ノ執行ヲ猶予セラレタル者及陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依リ一年未満ノ禁錮ノ刑ニ処セラレタル者ニハ其ノ情状ニ依リ之ヲ授与スルコトアルベシ

第六条　懲戒ノ裁判又ハ処分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者ニハ従軍記章ヲ授与セズ但シ其ノ情状ニ依リ之ヲ授与スルコトアルベシ

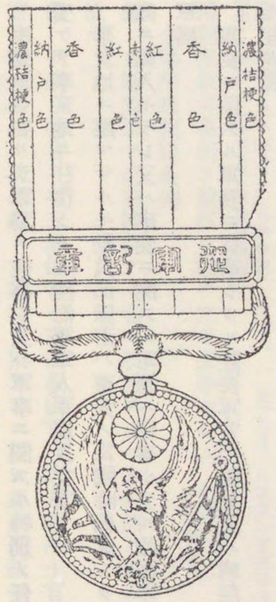
第七条　前二条ノ規定ハ処刑、免官又ハ免職ノ後第三条又ハ第四条ノ規定ニ該当スル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第八条　従軍記章ヲ授与セラルベキ者ニ対シテハ其ノ授与前死亡シタルトキト雖モ仍之ヲ授与ス

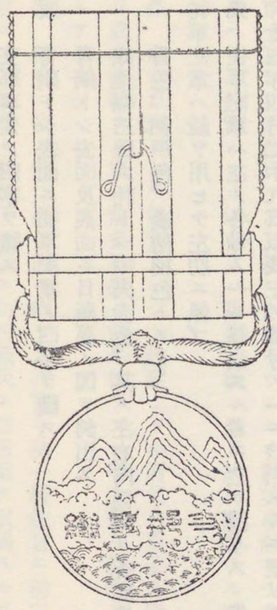
第九条　従軍記章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存スルコトヲ許ス

支那事変従軍記章ノ図

表　面



裏　面



●金鵄勲章併佩ニ関スル件

（昭和十六年六月二十八日勅令第七百二十六号）

〔沿革〕昭和一七年九月二五日勅令第六五七号改正
〔廃止〕昭和二二年五月三日政令第四号

朕金鵄勲章併佩ニ関スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（総理、陸軍、海軍大臣副署）

1　金鵄勲章ヲ有スル者更ニ同級ノ金鵄勲章ヲ賜ハリタルトキハ之ヲ併佩スベシ

2　金鵄勲章ヲ有スル者更ニ上級ノ金鵄勲章ヲ賜ハリタルトキハ前ニ賜ハリタル金鵄勲章ヲ併佩スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十七年九月二十五日勅令第六百五十七号）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス